

# 全国疫学調査

『青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」の  
受療状況に関する全国疫学調査』

## — 追加分析結果 —

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業

子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究  
研究代表者: 祖父江友孝 (大阪大学大学院医学系研究科教授)

### 全国疫学調査概要

前回資料

青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」について、頻度と特性を調査

(厚生労働省研究班「難病の患者数と臨床疫学像把握のための全国疫学調査マニュアル」の手法を使用、一部改変)

➤ **一次調査：全国の病院を対象に、2015年7月1日～12月31日(過去6か月間)における患者の受診有無について、報告依頼(患者ありの場合は性・年齢別患者数も)**

● **調査対象診療科(18,302診療科)**

- ✓ 10診療科 小児科、神経内科、ペインクリニック、産婦人科、整形外科、内科(消化器疾患担当)、内科(リウマチ性疾患担当)、総合診療科、脳神経外科、精神科・心療内科

大学病院及び200床以上の病院の診療科→全数、200床未満の病院の診療科→半数抽出

- ✓ 特別階層: HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関83施設88診療科(2016年1月時点)→全数

● **調査対象症例基準(以下の①～④すべてを満たす)**

- ① 年齢: 12～18歳(2015年7月1日～12月31日受診時点の満年齢)
- ② 以下の症状が少なくとも1つ以上ある  
(疼痛および感覚(光・音・におい)の障害、運動障害、自律神経症状、認知機能の障害)
- ③ ②の症状が、3か月以上 持続している
- ④ ②及び③のため、通学・就労に影響がある

➤ **二次調査：多様な症状の臨床疫学像について報告依頼**

- 一次調査で「患者あり」と回答した診療科(508診療科)に、個人票送付
- 臨床疫学特性の情報収集(含: HPVワクチン接種歴)

一次調査と  
二次調査をあわせて

多様な症状があり、ワクチン接種歴のない患者数を推計

記載年月日 2016年 月 日

貴施設名:

貴診療科名:

ご回答医師名:

基準【別紙】を満たす患者の受診 (1. なし 2. あり)

男子 ( ) 例	女子 ( ) 例
うち、12歳 ( ) 例	うち、12歳 ( ) 例
13歳 ( ) 例	13歳 ( ) 例
14歳 ( ) 例	14歳 ( ) 例
15歳 ( ) 例	15歳 ( ) 例
16歳 ( ) 例	16歳 ( ) 例
17歳 ( ) 例	17歳 ( ) 例
18歳 ( ) 例	18歳 ( ) 例

記入上の注意事項

- 年齢は、過去6ヵ月間(2015年7月~12月)の受診時の年齢でご回答ください。
- 該当する患者がない場合も「1.なし」に○をつけ、ご返送下さい。
- 後日、各症例について二次調査を行います。あわせてご協力下さいますようお願い申し上げます。

2016年2月29日(月)までにご返送いただければ幸いです。

青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」の受療状況に関する全国疫学調査  
二次調査個人票

厚生労働省「子宮頸がんワクチンの有効性及び安全性の評価に関する疫学研究」

貴施設名: 診療科名:  
記入者ご氏名: 記入日: 2016年 月 日

調査対象者番号  
別紙対応表参照

- 貴科の診療録の情報(既存情報)に基づき、可能な範囲で記入下さい。
- 情報が不明の場合は、「不明」に○をつけ、「不明」とご記入ください。
- 記入もれ項目などについて、後日、お問い合わせさせていただきます場合があります。

性別	1. 男 2. 女	生年月日	西暦 年 月 日	現在 ( ) 歳
イニシャル	(姓) (名)	現在の居住地	都・道・府・県	
今回の症状を発生する前の、既往歴	1. なし 2. あり → 3. 不明	病名:	診断時 ( ) 歳	
今回の症状の、推定発症日・年齢	西暦 年 月 または ( ) 歳・不明	病名:	診断時 ( ) 歳	
(複数ある場合は、最も早い症状について記入)	発症時の主訴 ( )	西暦 年 月 日	( )	
今回の症状による、貴科初診日	他院からの紹介 (1. なし 2. あり)	西暦 年 月 日	( )	
貴科最終受診日 および その時点における、症状の全体的な転帰* (* 貴科初診日と比較して)	最終受診日: 西暦 年 月 日	症状の転帰 (1. 消失 2. 軽減 3. 不変 4. 増悪)	( )	

これまでの、子宮頸がん(HPV)ワクチン接種歴	1. なし 2. あり → 3. 不明	1回目	接種日(西暦 年 月 日)・不明
		2回目	接種日(西暦 年 月 日)・不明
		3回目	接種日(西暦 年 月 日)・不明

- 各症状の有無: 2015年7月~12月に貴科を受診した際に、認められた症状をお答えください。複数回答可能な場合は、この間に認められた症状すべてについてご記入ください。特に記載のない項目は、患者本人の訴えにもとづいて記入してください。

疼痛および感覚(光・音)の障害	1. なし 2. あり → 3. 不明	(部位)	しびれ感	1. なし 2. あり → 3. 不明	(部位)
関節痛			感覚鈍麻		
頭痛			光に対する過敏		
腰痛・背部痛			音に対する過敏		
腹痛			においに対する過敏		
全身の痛み					
その他の部位の痛み					

裏面にもお答え下さい

● 各症状の有無(続き)

運動障害	1. なし 2. あり 3. 不明	障害(本人の訴え)	1. なし 2. あり 3. 不明
起立障害		痺痺(本人の訴え)	
歩行障害		痺痺(医師による所見)	
振戦		腕力発作	
けいれん		握力の低下(握薬に物を落とす、など)	
自律神経症状など	1. なし 2. あり 3. 不明	四肢の冷感	1. なし 2. あり 3. 不明
めまい・立ちくらみ		体温の異常(平熱より高い)	
倦怠感・疲労感		体温の異常(平熱より低い)	
失神		過食	
冷汗		食欲低下	
手汗		過食	
耳鳴り		睡眠障害(含:昼夜の逆転)	
嘔気		食後の増満(見合わない、体重の増減)	
嘔吐		月経異常(本人の訴え)	
下痢		月経異常(医師による診断)*	
便秘			
認知機能の障害	1. なし 2. あり 3. 不明	左記3ついずれかが「あり」の場合: 学習能力の低下	1. 確認できていなかった 2. 確認されていた 3. 不明
記憶力の低下		集中力の低下	
学習能力の低下			
集中力の低下			

\* 正常月経の基準は、周期:25日~38日、持続日数:3日~7日、月経量:経血性状:日常生活に支障のない程度のもの、です

これらの症状は、3ヵ月以上 (1. 続いている 2. 続いていた) \*\* 複数の症状が判別できて出現していた場合、  
「全体として3ヵ月以上続いていた」と判断してください。

● 就学・就労状況: 2015年7月~12月のうち症状があった期間について、平均的な状況をお答え下さい。

1. ほぼ平常に就学・就労していた	1. ほぼ平常
2. 遅刻・欠席・欠勤・早退がしばしばあった(目安: 就学・就労すべき日数のうち、半分以下)	2. 昼間、ときどき臥床していた(目安: 臥床は昼間の半分以下)
3. 遅刻・欠席・欠勤・早退がしばしばあった(目安: 就学・就労すべき日数のうち、半分以下)	3. 昼間、しばしば臥床していた(目安: 臥床は昼間の半分以上)
4. ほとんど休んでいた	4. ほとんど1日中臥床していた
5. 不明	5. 不明

貴科で把握できている病名(※1)	
1. (主病名)	6.
2.	7.
3.	8.
4.	9.
5.	10.

上記の病名で、  
2015年7月~12月に  
認められた症状を  
おおよそ説明できますか

1. できない  
2. できる → 「最も説明できると思われる病名を、上記の番号でご記入ください ( )」  
3. 不明 → 【理由】 1. 当時の主治医が不在 (※2) 2. その他 ( )

※1 全国疫学調査に回答する上にはご記入ください。回答されているものをご記入ください。検査計が目的以外の病名(けいれん/セブ病名)は記入不要です。  
※2 可能であれば、当時の主治医の見解をおたずねいただきご記入ください。 本調査へのご協力、誠にありがとうございました。

「HPVワクチン接種後に生じたとされる症状と同様の多様な症状」に相当するか否か  
判断方法(2) : 取り扱い①と取り扱い②

調査票の回答内容			判断 (多様な症状の相当有無)	
記載の傷病名で 調査期間の症状を 説明できるか	主治医が「症状を最も説明できる」と指定した傷病名 (別表は傷病名一覧)		取り扱い ①	取り扱い ②
説明できない	—		別表1	相当する
説明できる	「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示されているもの 例)自己免疫脳症(HPVワクチン接種による)、 HPVワクチン関連神経免疫異常症候群、等		別表2	相当する
	「HPVワクチン接種による」又は 「HPVワクチン接種後」と明示されていない	下記以外 例)起立性調節障害 適応障害 身体表現性障害等	別表3	相当しない
		HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とは明らかに区別できる疾患* 例)全身性エリテマトーデス、 関節リウマチ、てんかん 等	別表4	相当しない
不明	—		別表5	不明

\* 主治医が「症状を最も説明できる」と指定した傷病名のみを列挙したリストに基づき、研究班班員(臨床医)が独立して判断し(個々の症例のその他の臨床疫学情報は一切考慮しない)、全員が一致して「HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とは明らかに区別できる疾患」と判断したものを。

## 平成28年12月26日 副反応検討部会における追加分析指示事項

### 1 二次調査報告症例の特性

- 1) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)
- 2) 症状の持続期間
- 3) 報告診療科

### 2 症状の層別分析

- 1) 年齢層別
- 2) 接種から発症までの期間別(女子接種者のみ)
- 3) 症状の持続期間別
- 4) 報告診療科別
- 5) 症状に関する主治医の判断・診断名別

### 3 症状の数が10以上である者の傷病名の分布

### 4 有訴率に影響しうる要因を考慮した分析

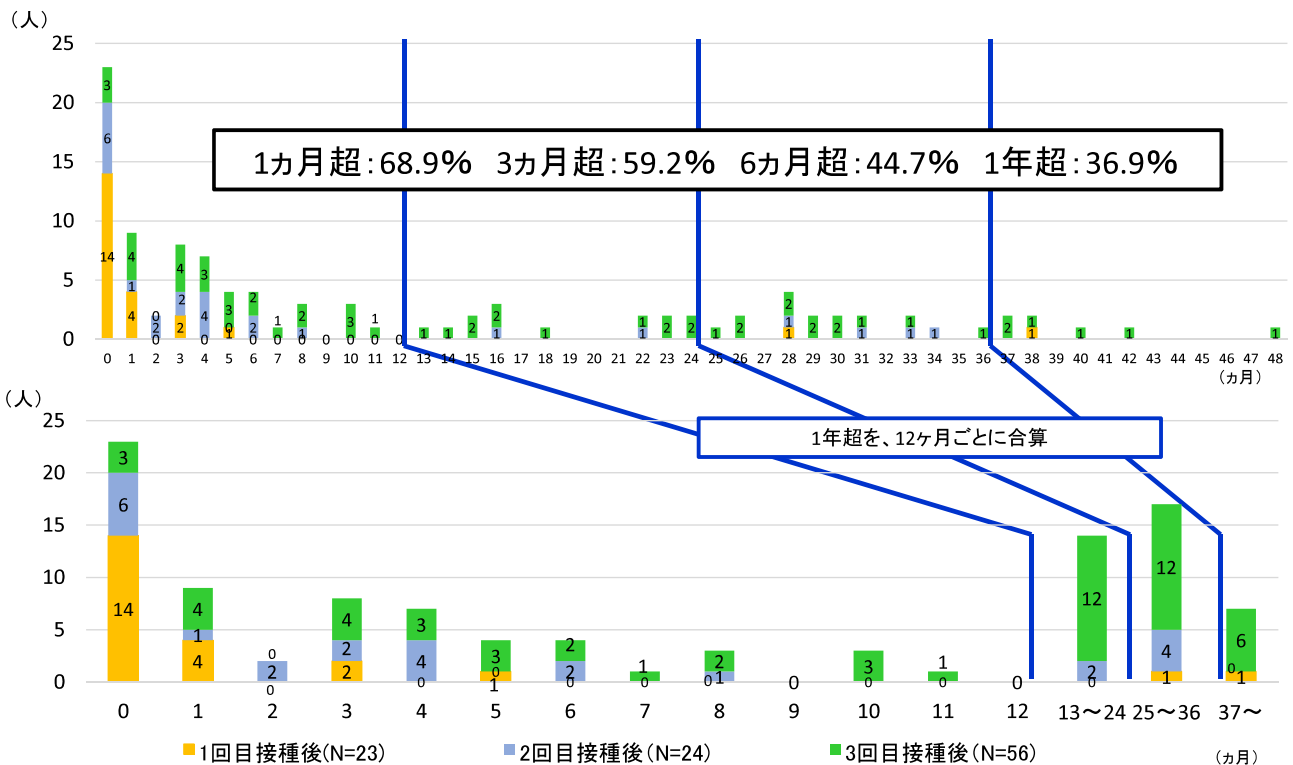
- 1) 「E群:接種歴不明」の接種率
- 2) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)
- 3) 症状の数

## 1 二次調査報告症例の特性

- 1) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)
- 2) 症状の持続期間
- 3) 報告診療科

### 発症直前の接種から発症までの期間 (直近の接種回数別)

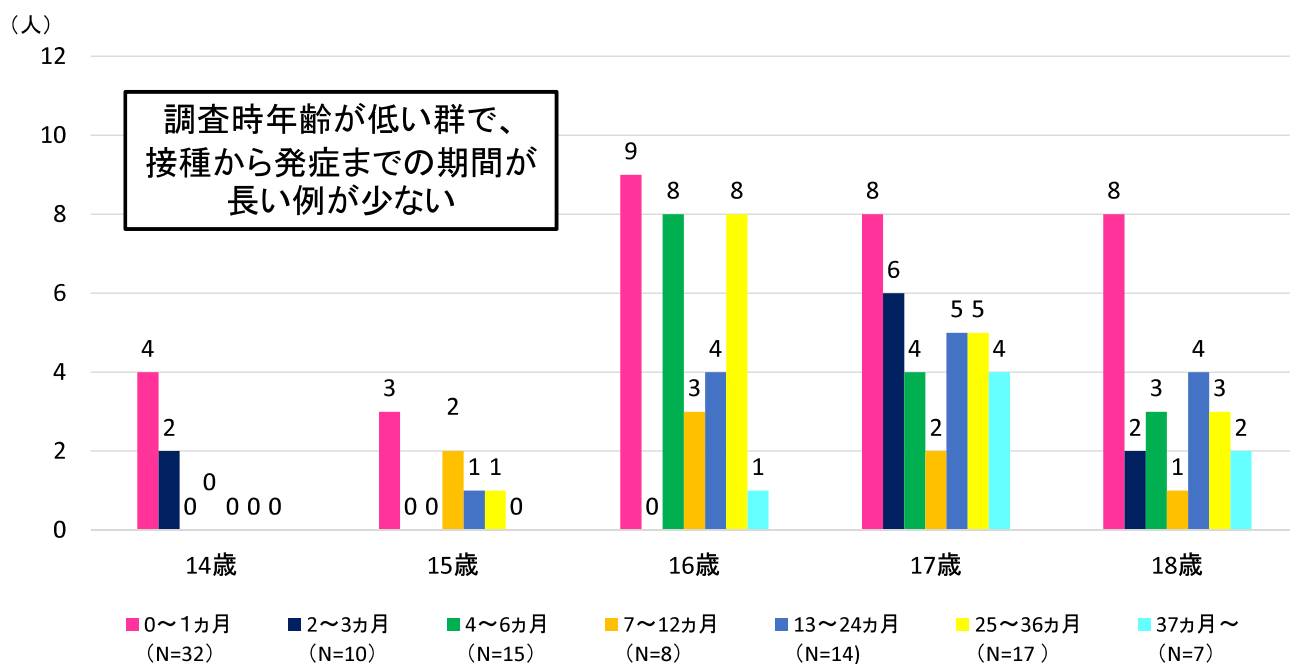
HPVワクチン接種後に発症し「多様な症状」を有する女子、発症時年齢12歳以上



発症直前の接種回数別に集計。接種同月に発症した場合は当該回接種後発症と扱った。  
 接種年の情報は、接種月が不明の者については、「12月に接種」(\*)と扱った。(\*)当該年の中で最も遅く接種したと仮定。  
 発症年齢と発症年の情報は、発症月が不明の者については、「誕生月に発症」(\*\*)と扱った。  
 (\*\*)当該年齢の中で最も早く発症したと仮定。

## 発症直前の接種から発症までの期間（調査時年齢別）

HPVワクチン接種後に発症し「多様な症状」を有する女子、発症時年齢12歳以上



2015年10月1日現在の年齢別に集計。

発症直前の接種から発症までの期間。接種同月に発症した場合は「0ヶ月」と扱った。

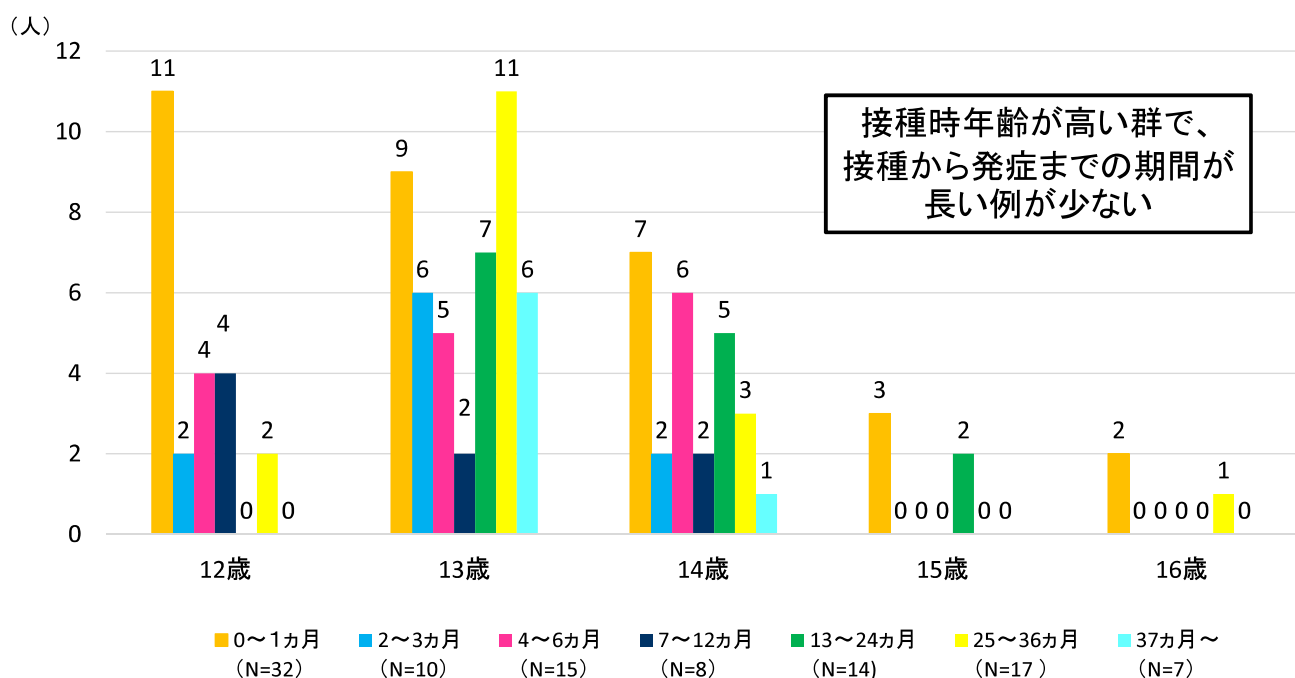
接種年の情報はあがるが、接種月が不明の者については、「12月に接種」(\*)と扱った。(\*)当該年の中で最も遅く接種したと仮定。

発症年齢と発症年の情報はあがるが、発症月が不明の者については、「誕生月に発症」(\*\*)と扱った。

(\*\*)当該年齢の中で最も早く発症したと仮定。

## 発症直前の接種から発症までの期間（接種時年齢別）

HPVワクチン接種後に発症し「多様な症状」を有する女子、発症時年齢12歳以上



接種時の年齢別に集計。

発症直前の接種から発症までの期間。接種同月に発症した場合は「0ヶ月」と扱った。

接種年の情報はあがるが、接種月が不明の者については、「12月に接種」(\*)と扱った。(\*)当該年の中で最も遅く接種したと仮定。

発症年齢と発症年の情報はあがるが、発症月が不明の者については、「誕生月に発症」(\*\*)と扱った。

(\*\*)当該年齢の中で最も早く発症したと仮定。

## 【小括】 1 二次調査報告症例の特性

### 1) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)

#### 全体として

- 1ヵ月超:68.9%、3ヵ月超:59.2%、6ヵ月超:44.7%、1年超:36.9%

#### 年齢別でみると

- 調査時年齢が低い群で、接種から発症までの期間が長い例が少なかった。
- しかし、接種年齢の下限がおおむね12歳であるため、調査時年齢が低い群では、接種から調査までの期間が短くなる。  
(例:調査時年齢14歳の群では、接種から調査までの期間は3年以上にはならない)
- 従って、本調査から、調査時年齢が低いほど、接種から発症までの期間が短いとは言えない。
- 接種時年齢が高い群で、接種から発症までの期間が長い例が少なかった。
- しかし、調査時年齢の上限が18歳であるため、接種時年齢が高い群では、接種から調査までの期間が短くなる。  
(例:接種時年齢16歳の群では、接種から調査までの期間は3年以上にはならない)
- 従って、本調査から、接種時年齢が高いほど、接種から発症までの期間が短いとは言えない。

## 平成28年12月26日 副反応検討部会における追加分析指示事項

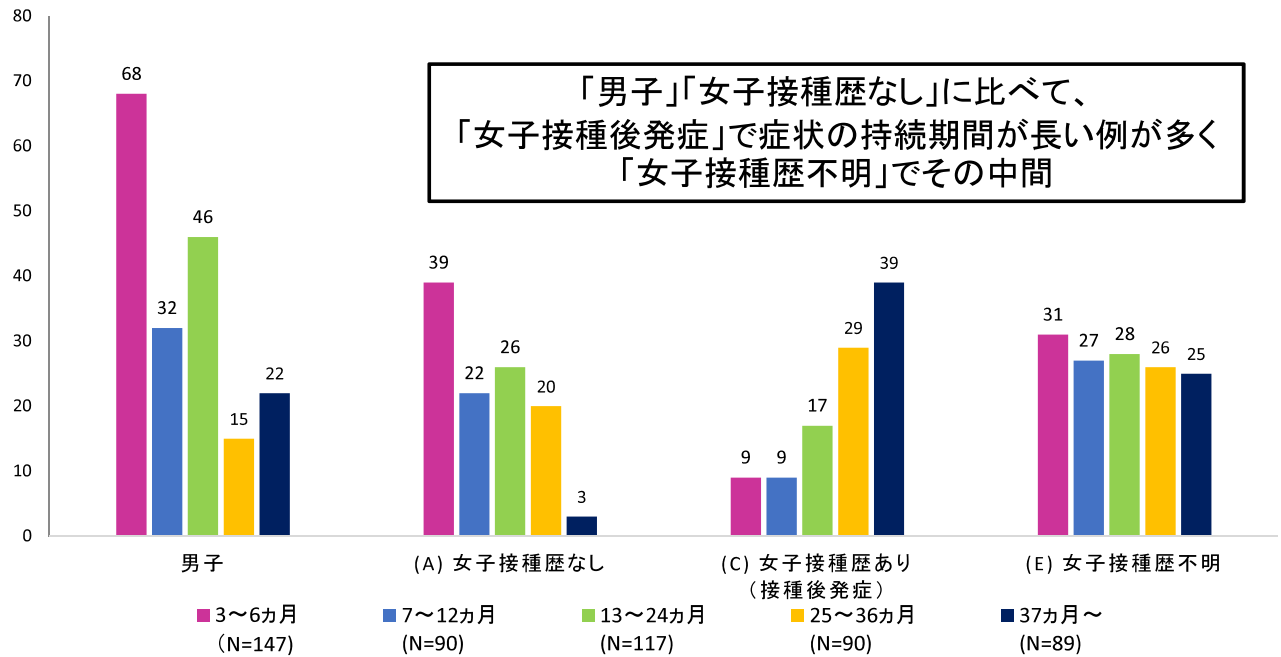
### 1 二次調査報告症例の特性

- 1) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)
- 2) 症状の持続期間
- 3) 報告診療科

## 症状の持続期間

「多様な症状」を有する男女、発症時年齢12歳以上

(人)



症状持続期間は、発症日から2015年10月1日(\*)までとして計算した。

(\*)有訴率の計算で、2015年10月1日現在の人口や年齢を使用していることに合わせるため。

発症年の情報はありますが発症月が不明の者については、「誕生月に発症(\*\*)」と扱った。

(\*\*)接種～発症までの期間の計算と合わせるため。(当該年齢の中で最も早く発症したと仮定)

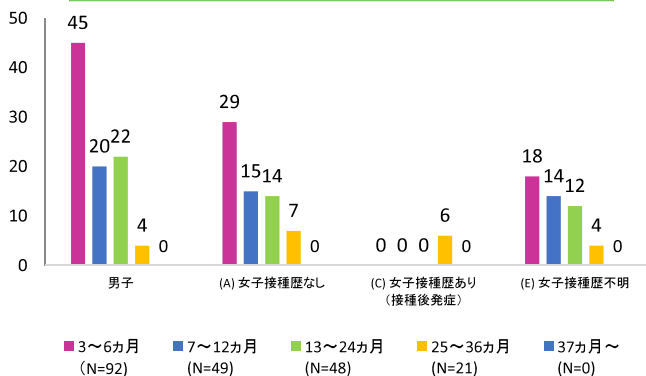
計算上、症状持続期間が3ヶ月未満となる者については、主治医による「これらの症状は(全体として)3ヶ月以上続いていた」という申告を採用し「3ヶ月」と扱った。

## 症状の持続期間(調査時年齢別)

「多様な症状」を有する男女、発症時年齢12歳以上

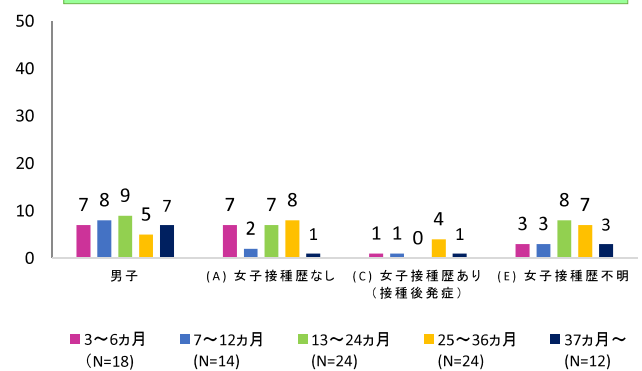
(人)

12歳から14歳



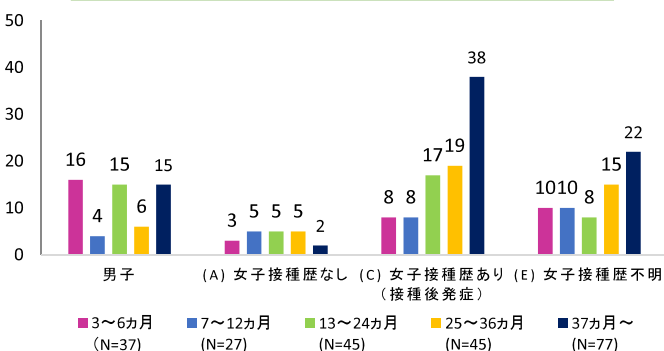
(人)

15歳



(人)

16歳から18歳



調査時年齢は、2015年10月1日で計算した。

症状持続期間は、発症日から2015年10月1日(\*)までとして計算した。  
(\*)有訴率の計算で、2015年10月1日現在の人口や年齢を使用していることに合わせるため。

発症年の情報はありますが発症月が不明の者については、「誕生月に発症(\*\*)」と扱った。

(\*\*)接種～発症までの期間の計算と合わせるため。(当該年齢の中で最も早く発症したと仮定)

計算上、症状持続期間が3ヶ月未満となる者については、主治医による「これらの症状は(全体として)3ヶ月以上続いていた」という申告を採用し「3ヶ月」と扱った。

## 【小括】 1 二次調査報告症例の特性

### 2) 症状の持続期間

#### 調査時年齢別にみると (「症状の持続期間(調査時年齢別)」スライド)

- ・ 調査時年齢が低い群において、「男子」「女子接種歴なし」で、症状の持続期間が短い例が多かった。
- ・ 調査時年齢が高い群において、「女子接種後発症」で、症状の持続期間が長い例が多かった。
- ・ 「女子接種歴不明」は、いずれの年齢でも中間的な傾向であった。

しかし、以下のような調査設計上の限界がある。

- ① 発症時年齢の下限が12歳であるため、調査時年齢が低い群では、発症から調査までの期間が短くなる。  
(例: 調査時年齢12歳の群では、発症から調査までの期間は1年以上にはならない。)
- ② 短期改善例を捕捉しにくい。

従って、調査時年齢別にみた症状の持続期間の違いは、調査設計の影響を受けている。

## 【小括】 1 二次調査報告症例の特性

### 2) 症状の持続期間

#### 全体として (「症状の持続期間」スライド)

- ・ 「男子」「女子接種歴なし」に比べて「女子接種後発症」では、症状の持続期間が長い例が多かった。「女子接種歴不明」では、その中間的な傾向であった。
- ・ この現象の主な要因は、「男子」「女子接種歴なし」「女子接種後発症」の年齢分布が違ふことにある。  
(「症状の持続期間(調査時年齢別)」スライドより、  
「男子」「女子接種歴なし」で調査時年齢が低い例が多く、  
「女子接種後発症」で調査時年齢が高い例が多い。)

従って、男女別・接種歴別に見た症状の持続期間に、違いがあるとは言えない。



## 1 二次調査報告症例の特性

- 1) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)
- 2) 症状の持続期間
- 3) 報告診療科

## 全国疫学調査 調査対象診療科 詳細

### 1) 10診療科

- ①小児科、②神経内科、③ペインクリニック、④産婦人科、⑤整形外科、  
⑥内科(消化器疾患担当)、⑦内科(リウマチ性疾患担当)、⑧総合診療科、⑨脳神経外科、  
⑩精神科・心療内科

✓ **選定根拠:**

「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」を生じた患者が受診すると考えられるため

- ・ 大学病院及び200床以上の病院の診療科 → 全数
- ・ 200床未満の病院の診療科 → 半数を抽出

### 2) 特別階層

HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関\*(2016年1月時点)

\* 厚生労働省が、HPVワクチン接種後に生じた多様な症状を診療する医療機関として、2014年11月に各都道府県ごとに設置した医療機関。

✓ **選定根拠:**

「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」を生じた患者が、特に集中して受診すると考えられるため

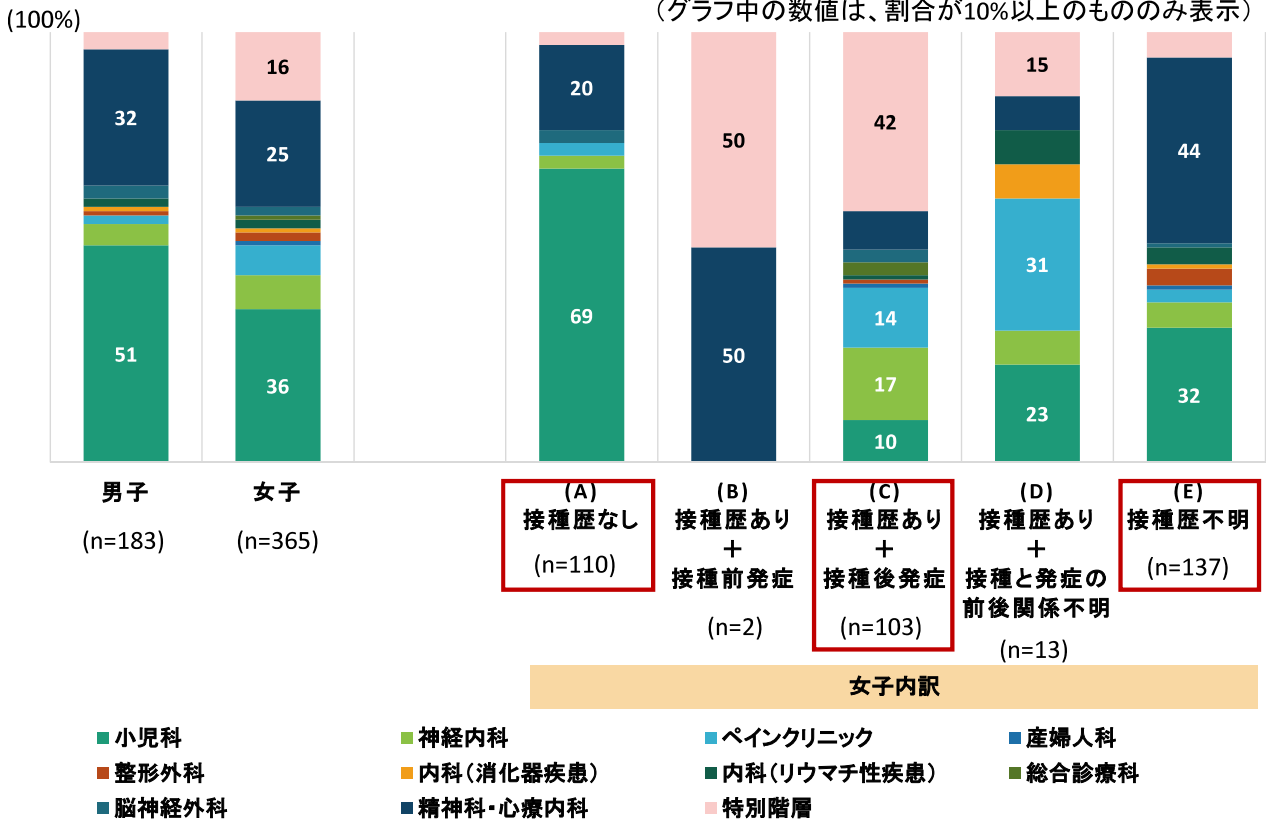
- ・ 病床規模にかかわらず、全数
- ・ 厚生労働省研究班「難病の患者数と臨床疫学像把握のための全国疫学調査マニュアル」の手法にあわせ、「診療科」単位で報告依頼 → 83施設の88診療科(※)

(※)2016年1月時点で厚生労働省ホームページ上に公表されていた、「問合せ窓口診療科」

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する者・発症時年齢12歳以上）

### 診療科の分布

### 前回資料

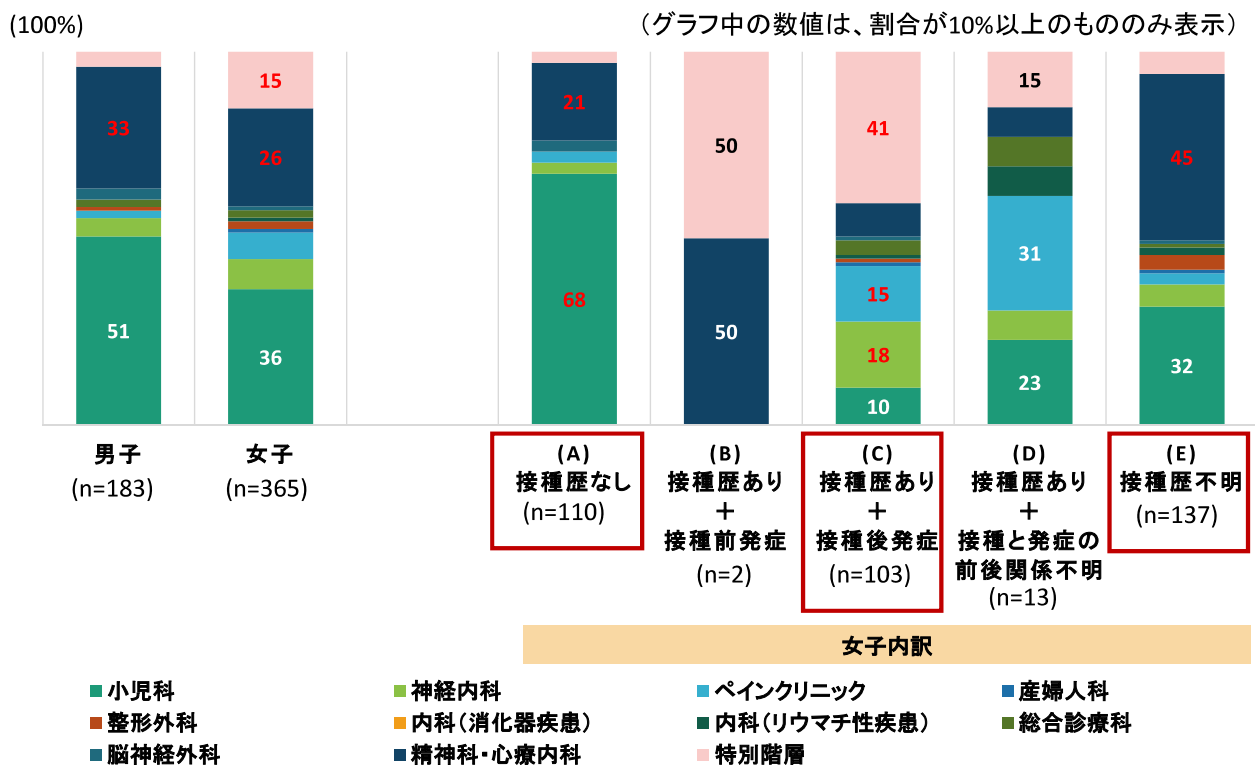


## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する者・発症時年齢12歳以上）

### 診療科の分布

### 修正後

(二次調査票に記入された診療科の情報を細かく見直し、再集計)



1-3)-① 二次調査:診療科毎の報告患者数

診療科	施設あたりの報告数内訳							
	男子				女子			
	1 ~ 4	5 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	1 ~ 4	5 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29
小児科	29	4	1 <sup>*1</sup>	0	51	4	2	0
神経内科	5	0	0	0	17	1	0	0
ペインクリニック	3	0	0	0	9	2	0	0
産婦人科	0	0	0	0	2	0	0	0
整形外科	1	0	0	0	3	0	0	0
内科(消化器疾患担当)	0	0	0	0	0	0	0	0
内科(リウマチ性疾患担当)	0	0	0	0	5	0	0	0
総合診療科	1	0	0	0	3	0	0	0
脳神経外科	3	0	0	0	5	0	0	0
精神科・心療内科	18	3	1 <sup>*2</sup>	0	24	4	2	0
特別階層	3	0	0	0	10	2	0	1 <sup>*3</sup>
計	63	7	2	0	129	13	4	1

報告症例数 : \*1 19人、\*2 13人、\*3 27人

1-3)-② 二次調査:診療科毎の報告患者数(女子, 接種歴別)

診療科	施設あたりの報告数内訳											
	A群:接種歴なし				C群:接種後に発症				E群:接種歴不明			
	1 ~ 4	5 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	1 ~ 4	5 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	1 ~ 4	5 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29
小児科	31	3	1 <sup>*1</sup>	0	8	0	0	0	16	1	1 <sup>*3</sup>	0
神経内科	3	0	0	0	14	0	0	0	4	0	0	0
ペインクリニック	2	0	0	0	4	2	0	0	4	0	0	0
産婦人科	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
整形外科	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0
内科(消化器疾患担当)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内科(リウマチ性疾患担当)	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0
総合診療科	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0
脳神経外科	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
精神科・心療内科	9	1	0	0	6	0	0	0	15	2	2 <sup>*4,*5</sup>	0
特別階層	2	0	0	0	8	1	0	1 <sup>*2</sup>	1	1	0	0
計	50	4	1	0	47	3	0	1	49	4	3	0

報告症例数 : \*1 13人、\*2 26人、\*3 11人、\*4 11人、\*5 13人

1-3)-③ 二次調査:診療科毎の報告患者数  
(女子,「HPVワクチンによる」又は「HPVワクチン接種後」と  
明示された傷病名で「説明できる」とされた症例)

診療科	施設あたりの報告数内訳			
	1~4	5~9	10~19	20~29
小児科	0	0	0	0
神経内科	4	0	0	0
ペインクリニック	0	0	0	0
産婦人科	0	0	0	0
整形外科	0	0	0	0
内科(消化器疾患担当)	0	0	0	0
内科(リウマチ性疾患担当)	1	0	0	0
総合診療科	1	0	0	0
脳神経外科	0	0	0	0
精神科・心療内科	0	0	0	0
特別階層	0	0	0	1*
<b>計</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>

\* 報告症例数24人.

【小括】 1 二次調査報告症例の特性

3) 報告診療科

下記の診療科で、患者報告数が多い施設があった。

男子	小児科(19人)、精神科・心療内科(13人)
女子、接種歴なし	小児科(13人)
女子、接種後発症	特別階層(26人*)
女子、接種歴不明	小児科(11人)、精神科・心療内科(13人)

括弧内の人数は、報告数が多かった施設について、1施設あたりの最大報告患者数を示す。

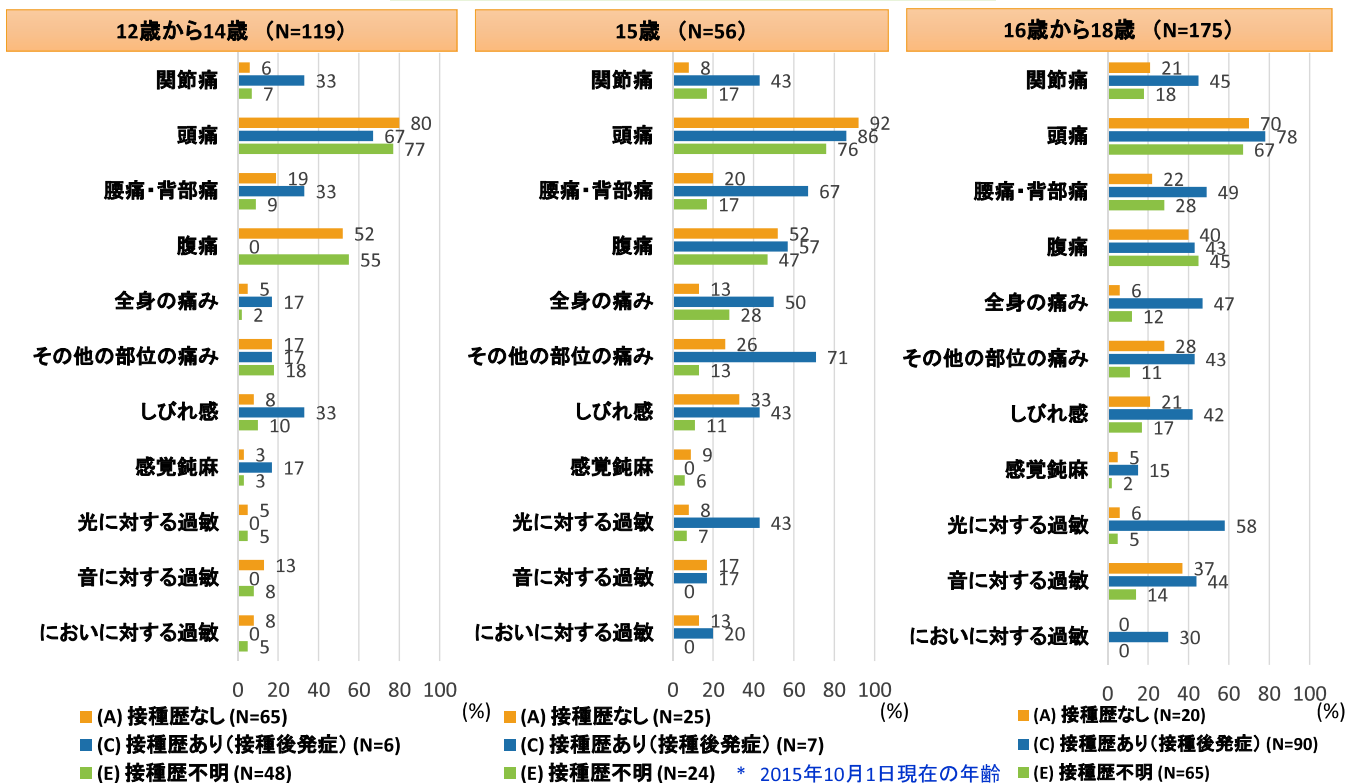
\* うち24人は、「HPVワクチンによる」又は「HPVワクチン接種後」と明示された傷病名で、今回の症状を「説明できる」とされた症例

## 2 症状の層別分析

- 1) 年齢層別
- 2) 接種から発症までの期間別(女子接種者のみ)
- 3) 症状の持続期間別
- 4) 報告診療科別
- 5) 症状に関する主治医の判断・診断名別

### 二次調査報告症例(「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上) 個別症状の割合(1) (調査時年齢\*別)

#### 疼痛および感覚(光・音・におい)の障害

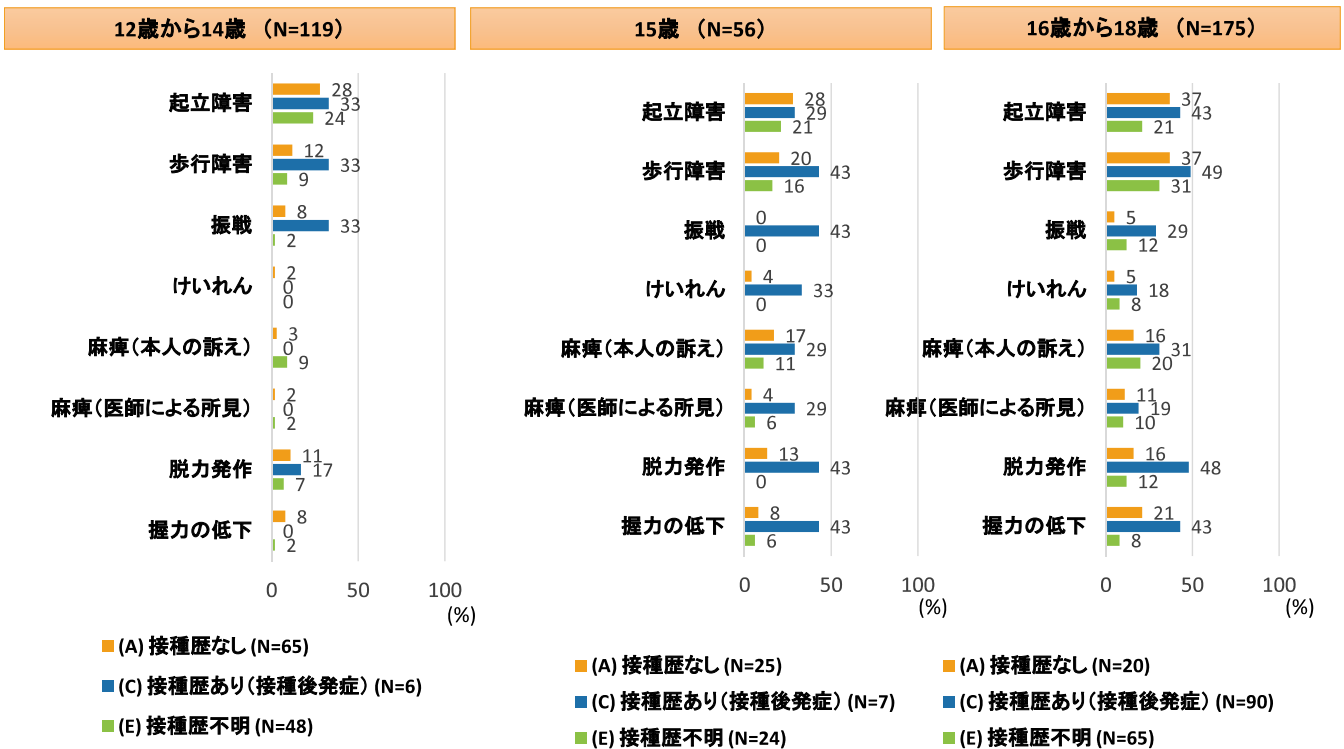


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 2015年10月1日現在の年齢  
 症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (2) (調査時年齢\*別)

運動障害

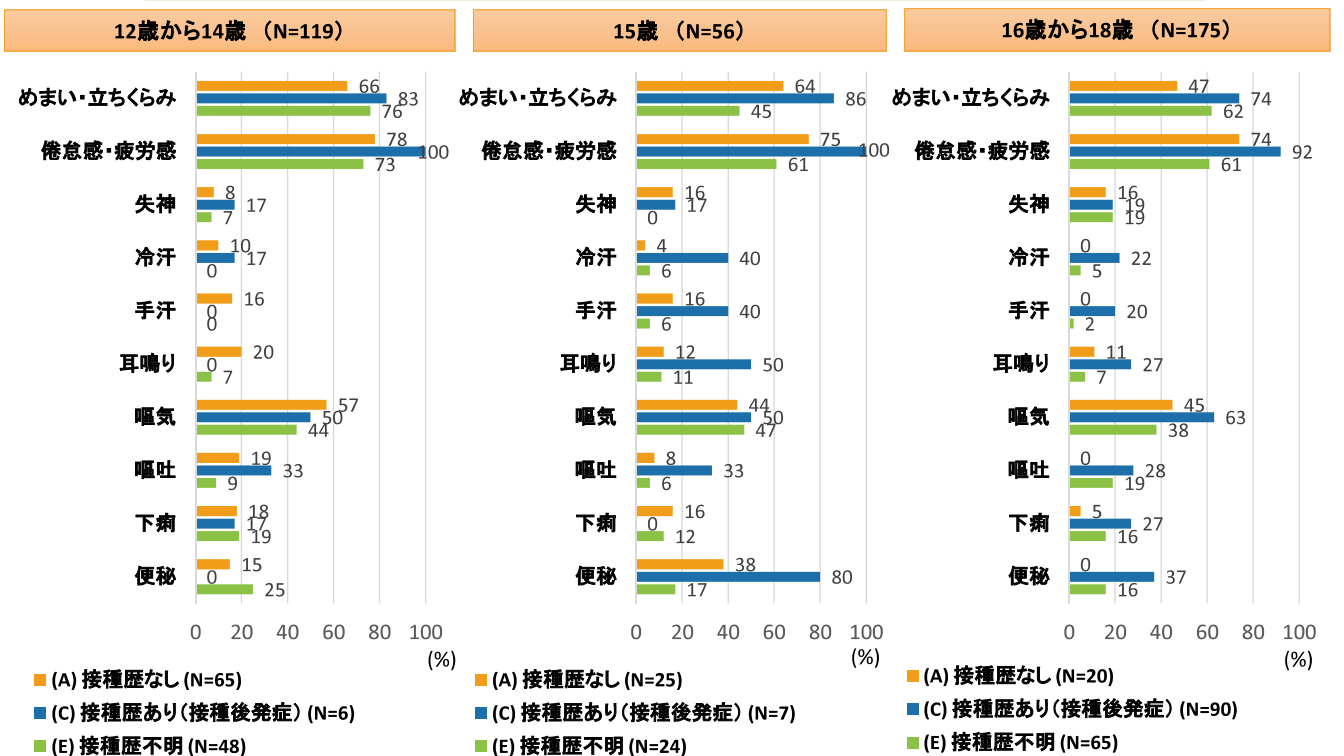


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 2015年10月1日現在の年齢  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (3) (調査時年齢\*別)

自律神経症状など(1)

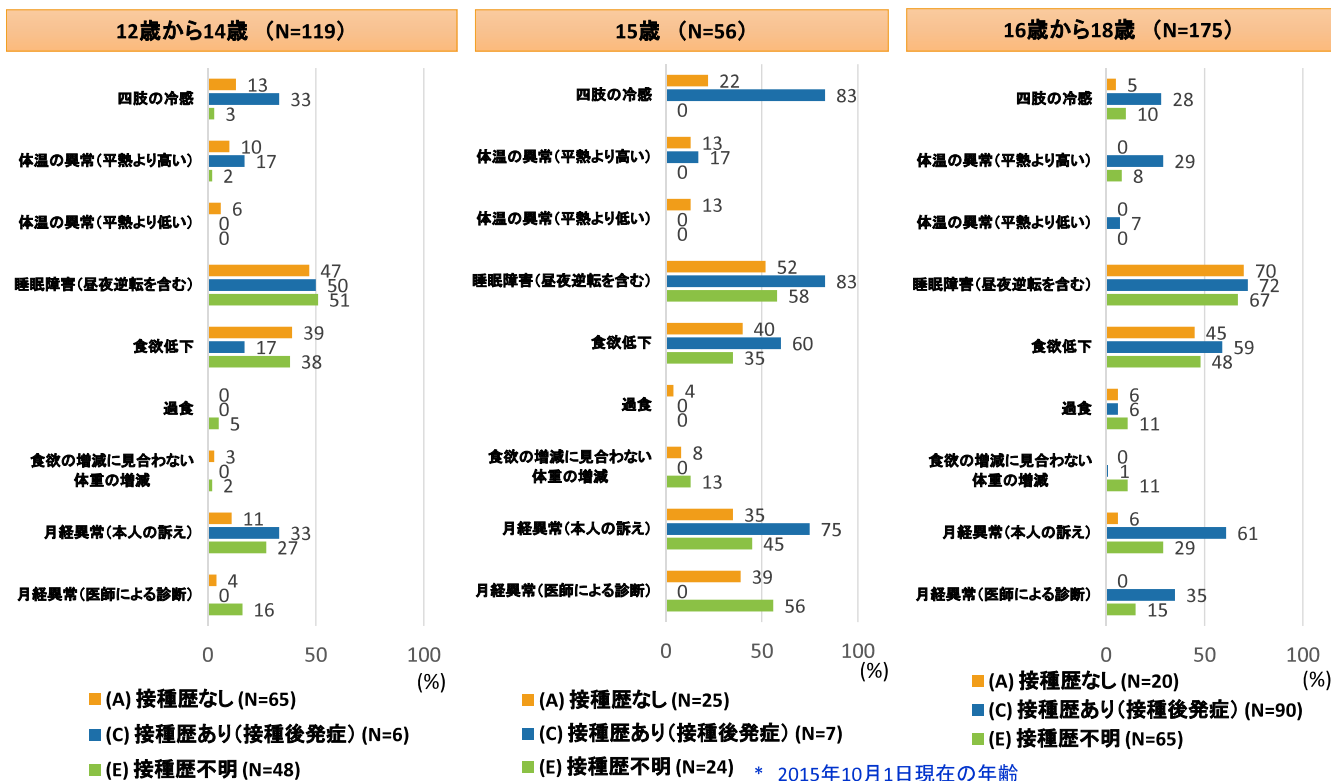


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 2015年10月1日現在の年齢  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (4)（調査時年齢\*別）

自律神経症状など(2)

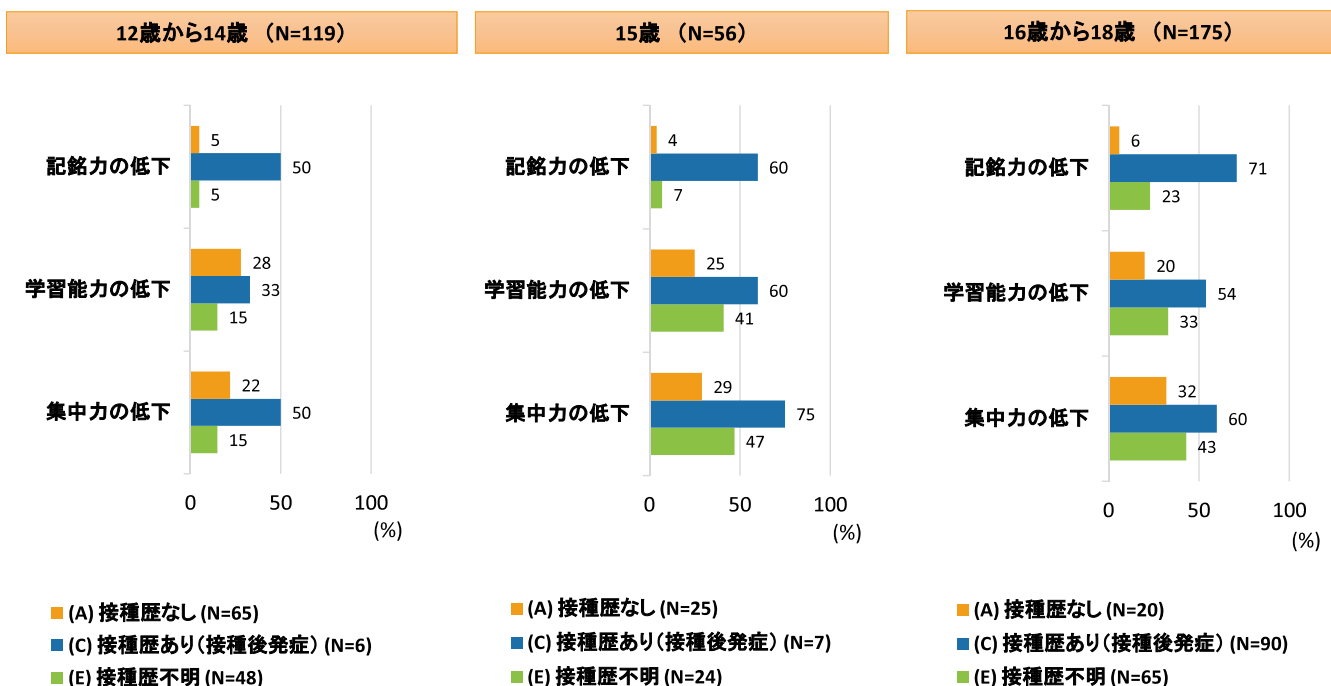


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 2015年10月1日現在の年齢  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (5)（調査時年齢\*別）

認知機能の障害

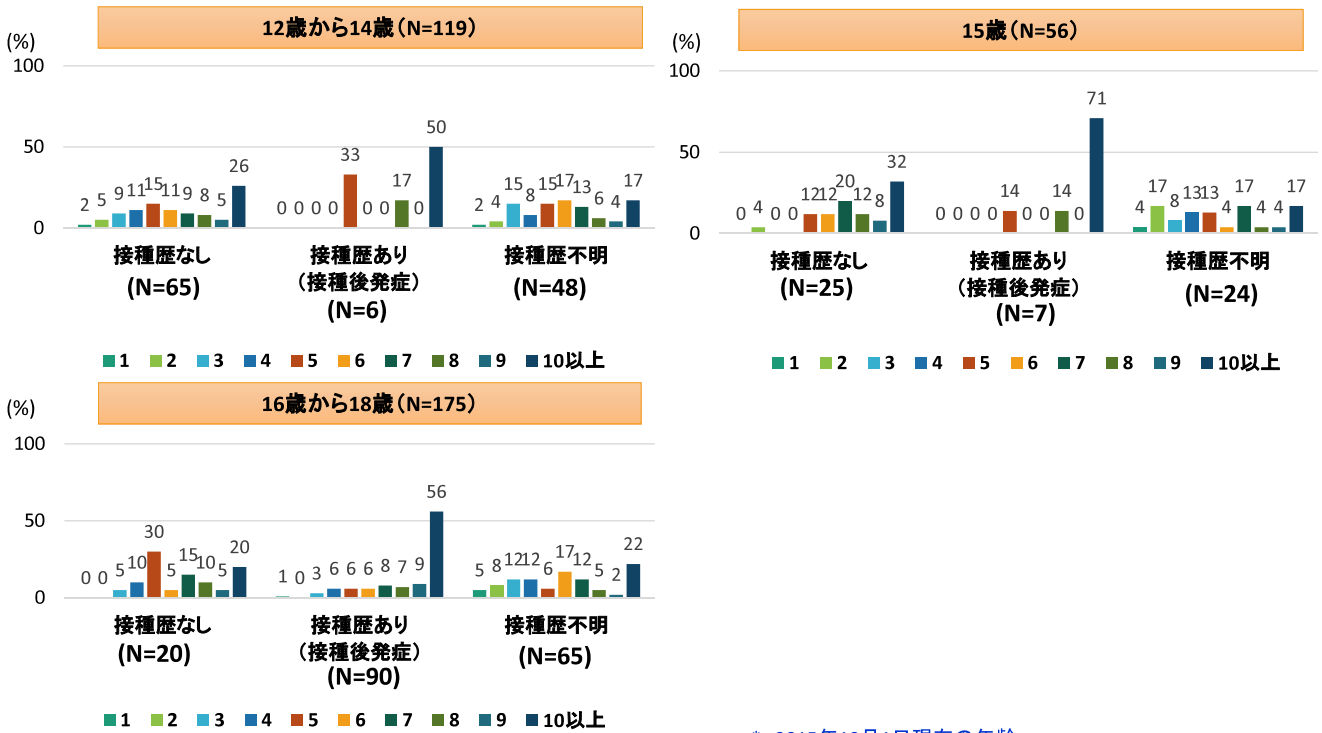


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 2015年10月1日現在の年齢  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 症状の全体的な傾向 (1)（調査時年齢\*別）

### 症状の数別にみた割合

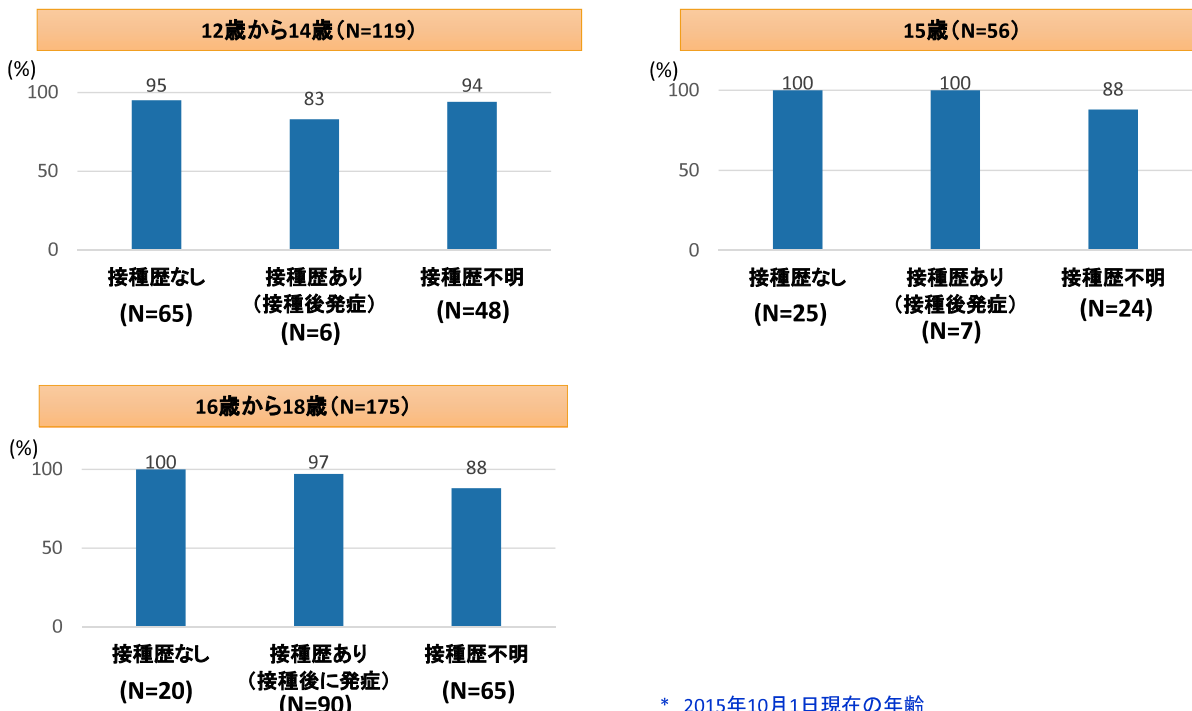


\* 2015年10月1日現在の年齢  
 症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 症状の全体的な傾向 (2)（調査時年齢\*別）

### 「疼痛」または「運動障害」の症状を1つ以上有する者の割合



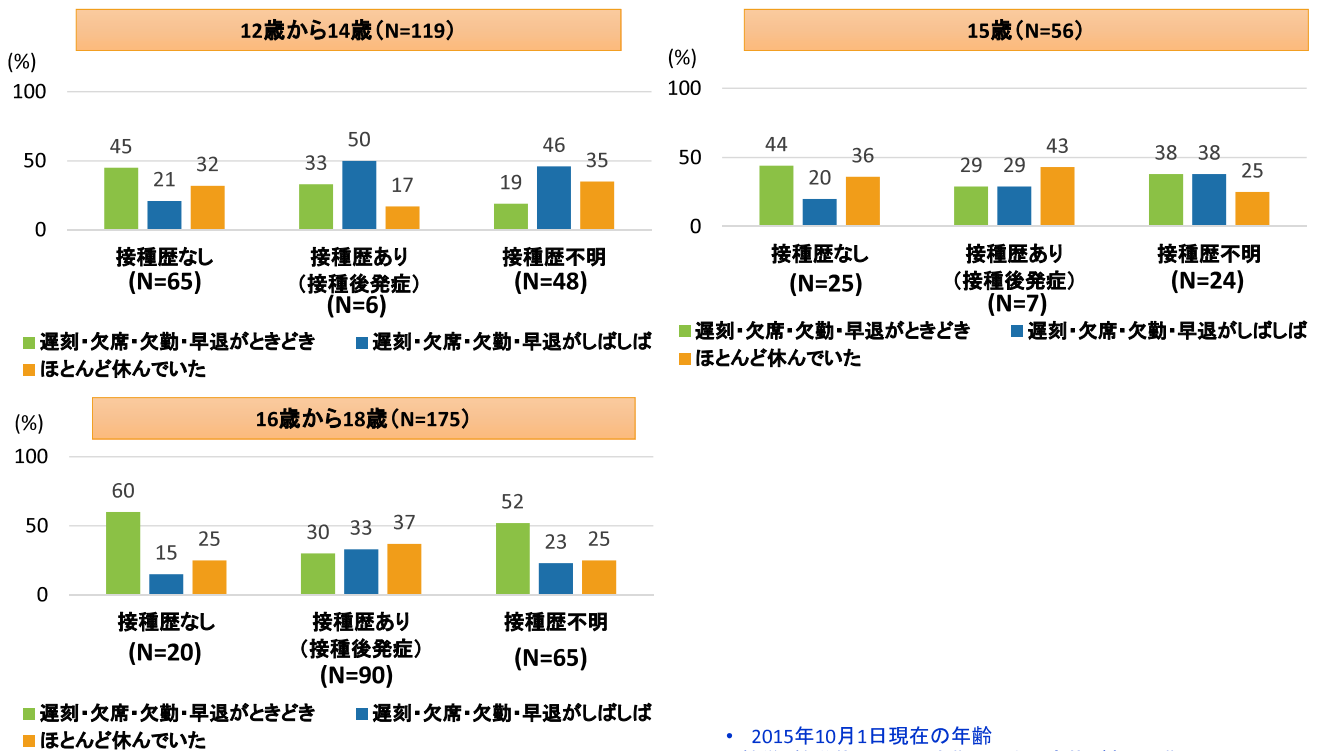
\* 2015年10月1日現在の年齢  
 症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。



二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
就学・就労状況(1)（調査時年齢\*別）

就学・就労状況

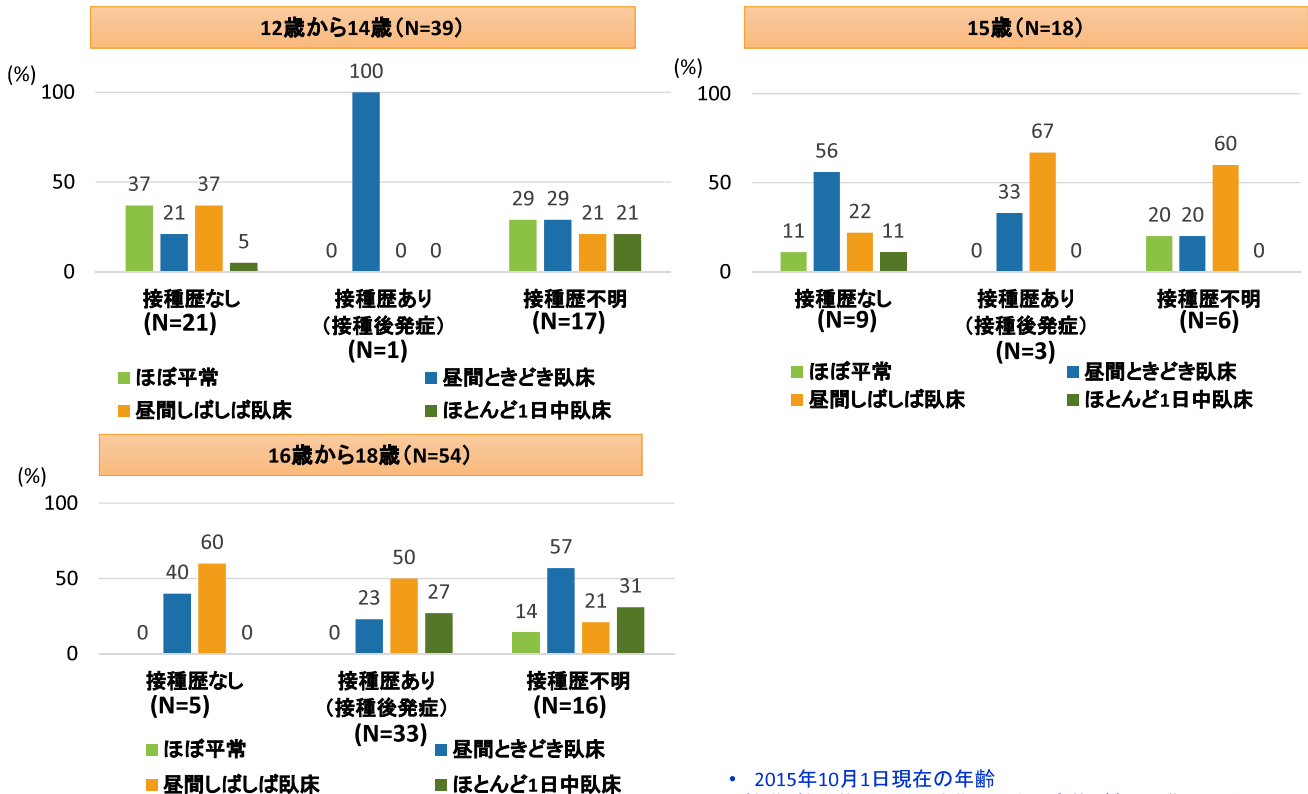


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

・ 2015年10月1日現在の年齢  
就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
就学・就労状況 (2)（調査時年齢\*別）

自宅での過ごし方（就学・就労状況で「ほとんど休んでいた」場合）



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

・ 2015年10月1日現在の年齢  
就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。

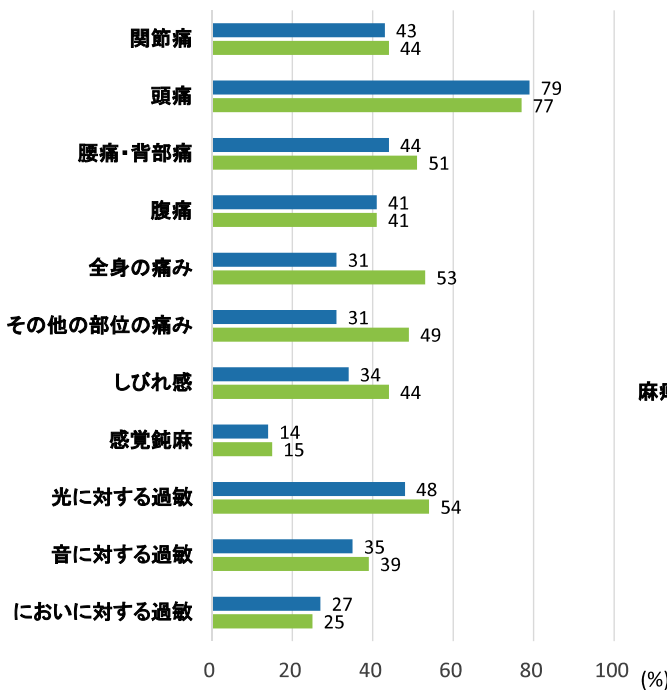
## 2 症状の層別分析

- 1) 年齢層別
- 2) 接種から発症までの期間別(女子接種者のみ)
- 3) 症状の持続期間別
- 4) 報告診療科別
- 5) 症状に関する主治医の判断・診断名別

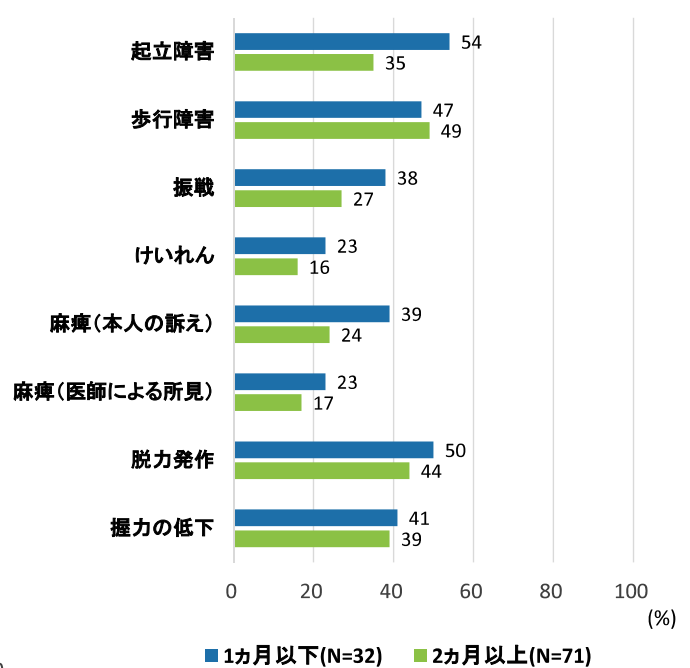
### 二次調査報告症例(「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上) 個別症状の割合(1)(発症直前の接種から発症までの期間別)

HPVワクチン接種後に発症し「多様な症状」を有する女子、発症時年齢12歳以上

#### 疼痛および感覚(光・音・におい)の障害



#### 運動障害



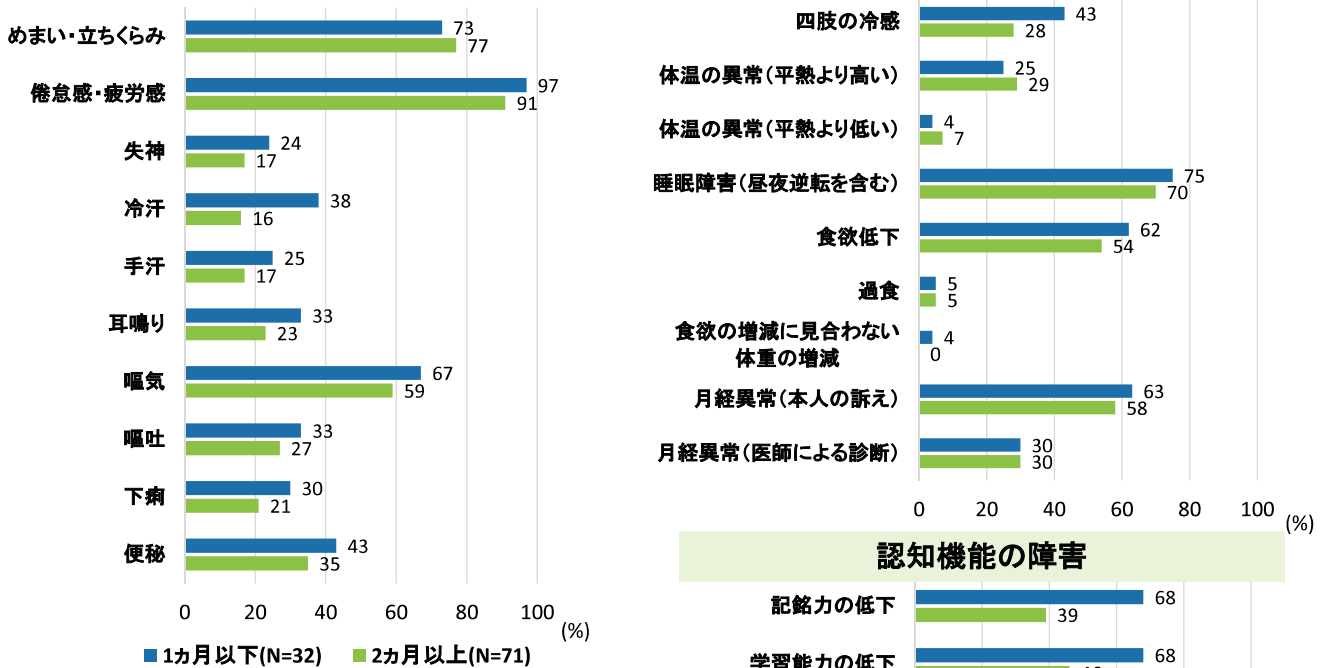
グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

発症直前の接種から発症までの期間別集計。  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 個別症状の割合 (2)（発症直前の接種から発症までの期間別）

HPVワクチン接種後に発症し「多様な症状」を有する女子、発症時年齢12歳以上

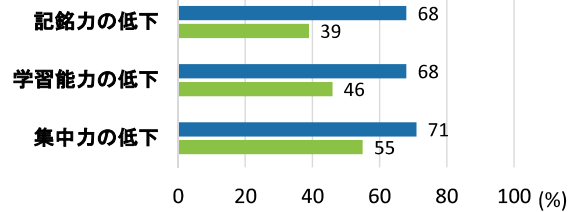
### 自律神経症状など



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

発症直前の接種から発症までの期間別集計。  
症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

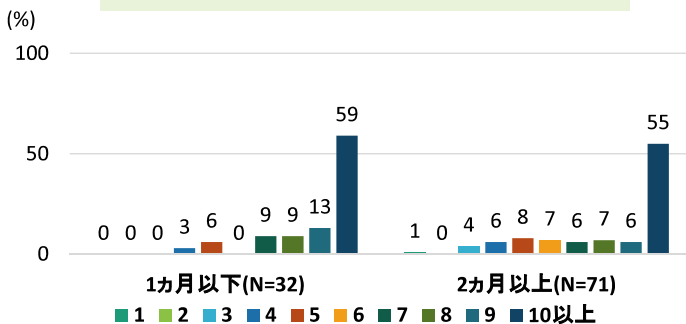
### 認知機能の障害



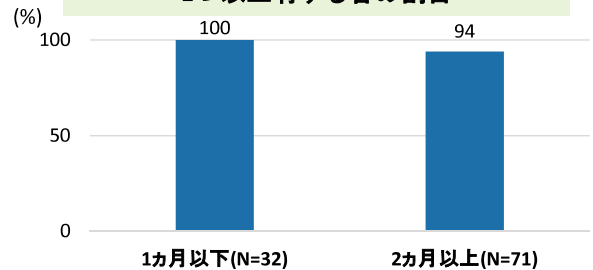
## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 症状の全体的な傾向と、就学・就労状況（発症直前の接種から発症までの期間別）

HPVワクチン接種後に発症し「多様な症状」を有する女子、発症時年齢12歳以上

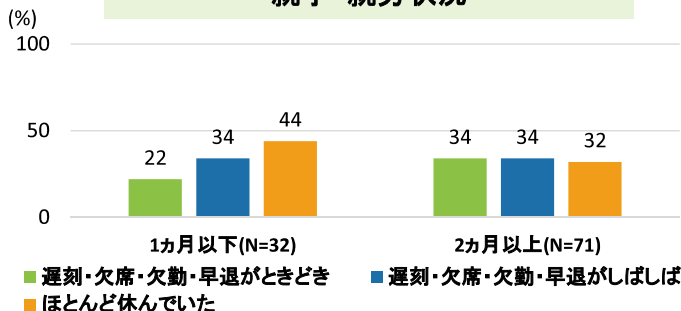
### 症状の数別にみた割合



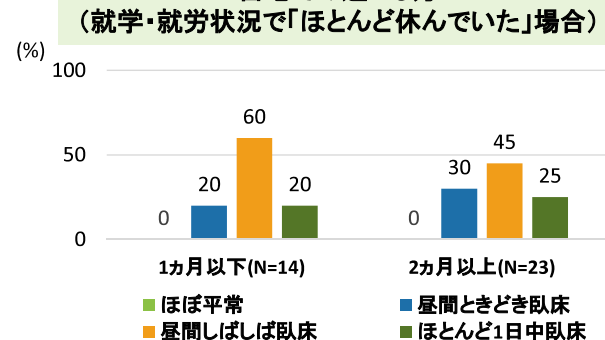
### 「疼痛」または「運動障害」の症状を1つ以上有する者の割合



### 就学・就労状況



### 自宅での過ごし方



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

発症直前の接種から発症までの期間別集計。

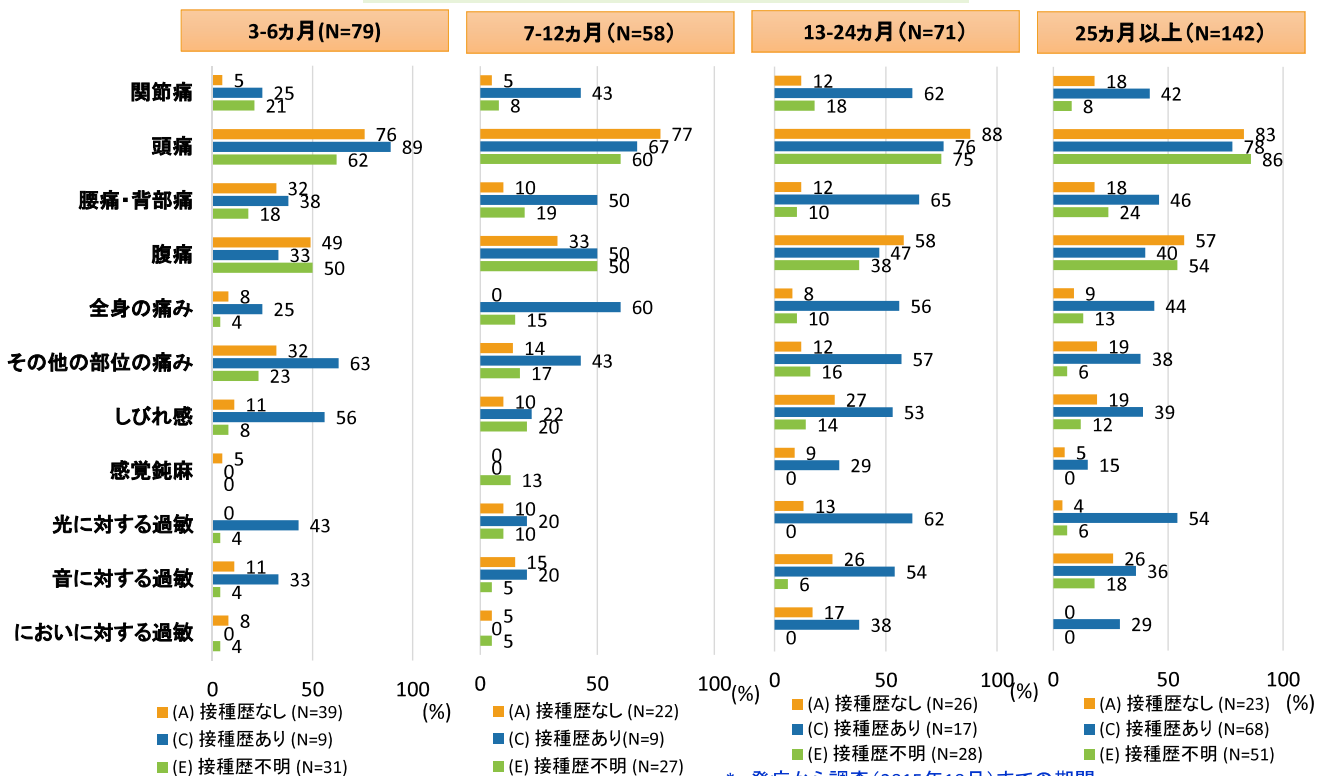
症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。  
就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。

## 2 症状の層別分析

- 1) 年齢層別
- 2) 接種から発症までの期間別(女子接種者のみ)
- 3) 症状の持続期間別
- 4) 報告診療科別
- 5) 症状に関する主治医の判断・診断名別

### 二次調査報告症例(「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上) 個別症状の割合(1) (症状の持続期間\*別)

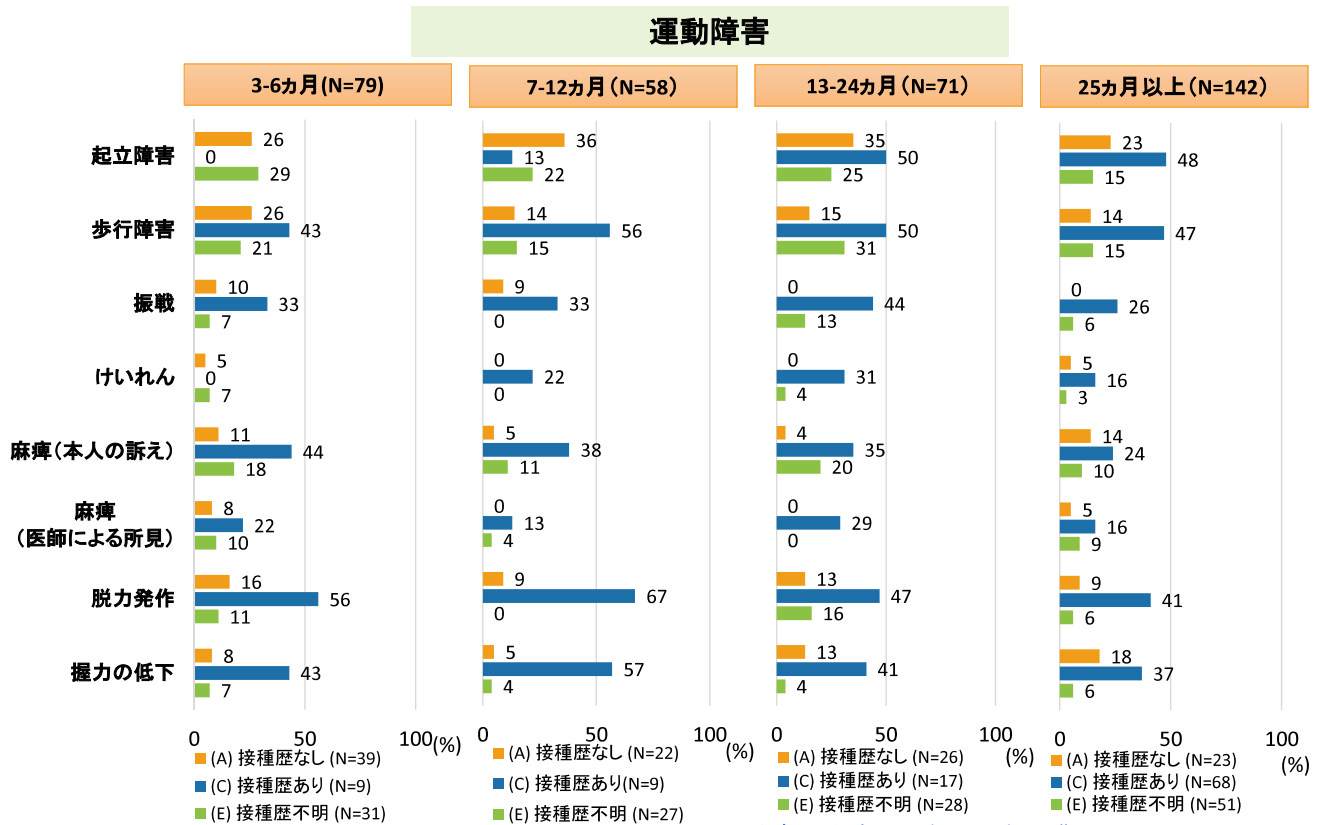
#### 疼痛および感覚(光・音・におい)の障害



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

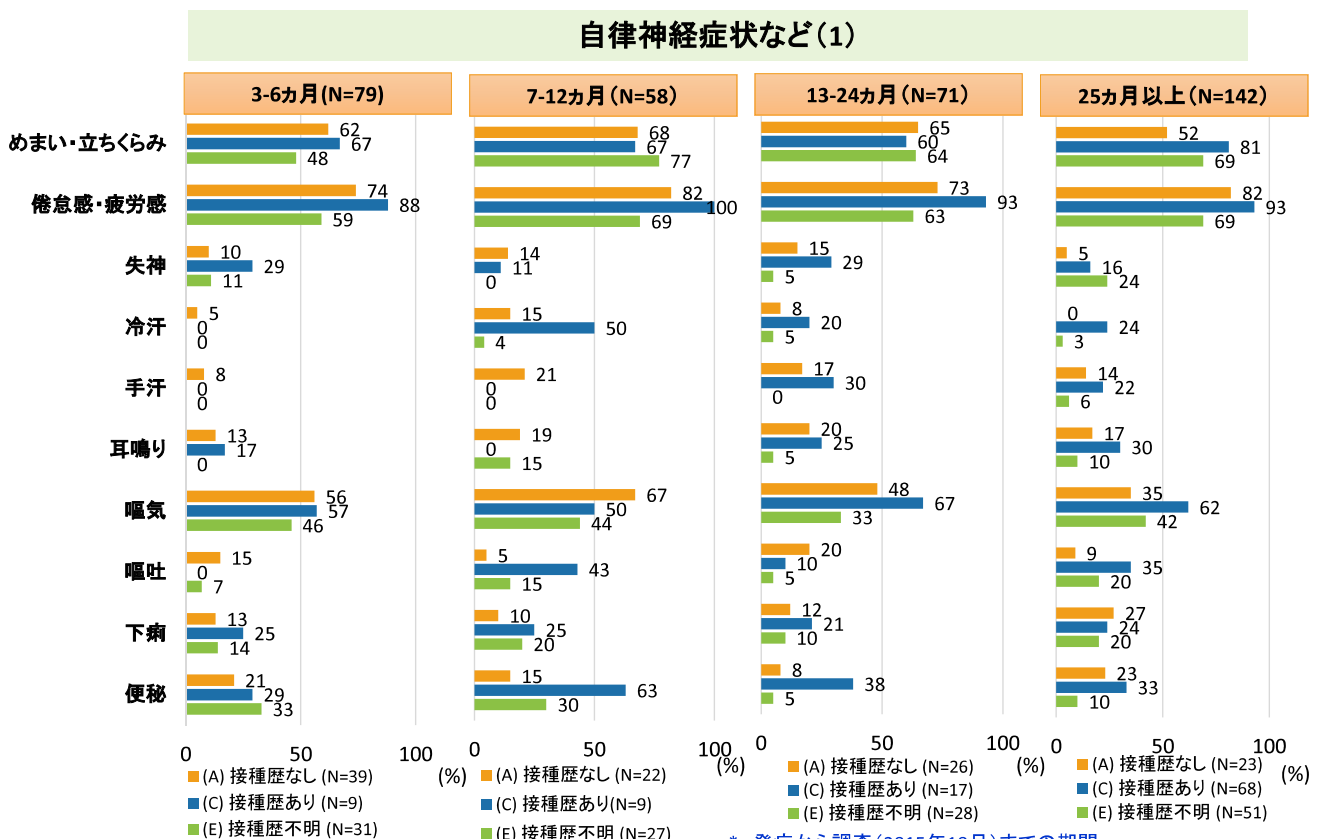
二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (2) (症状の持続期間\*別)



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (3) (症状の持続期間\*別)

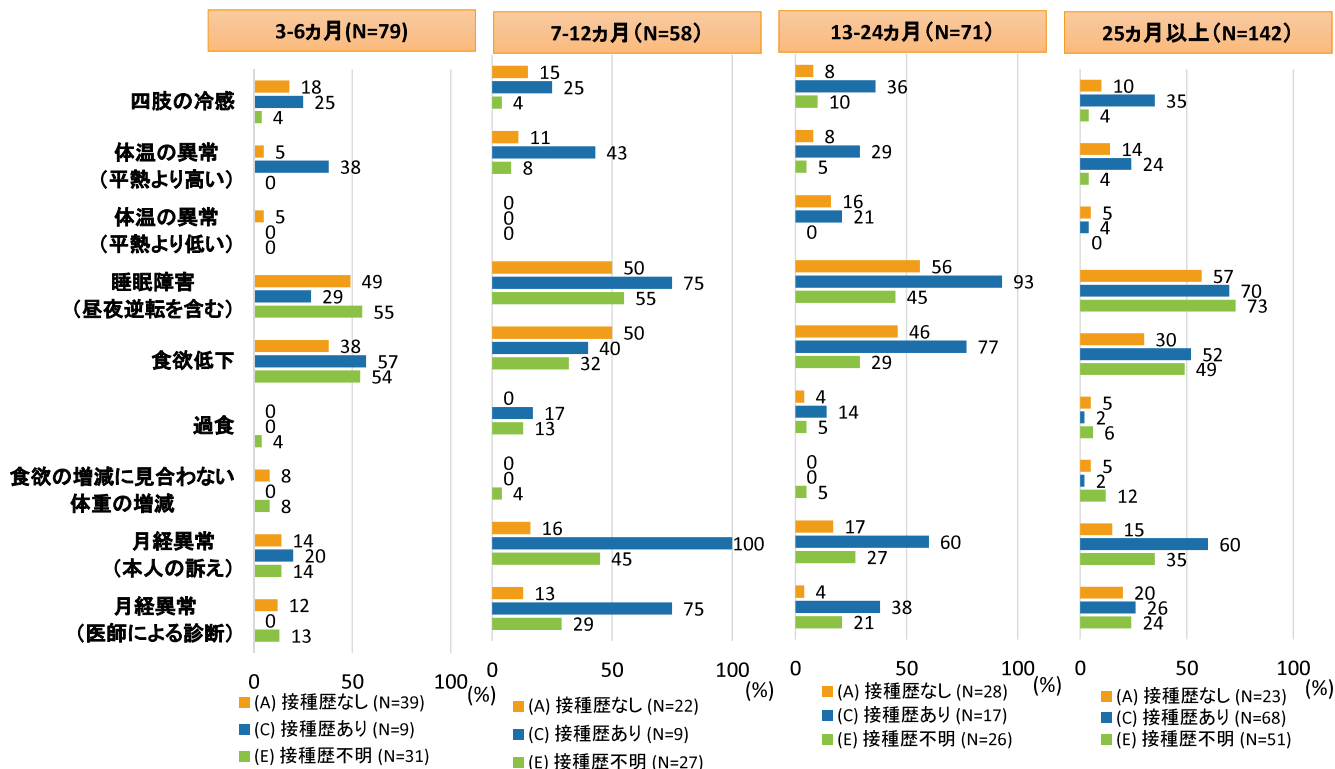


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (4) (症状の持続期間\*別)

自律神経症状など(2)

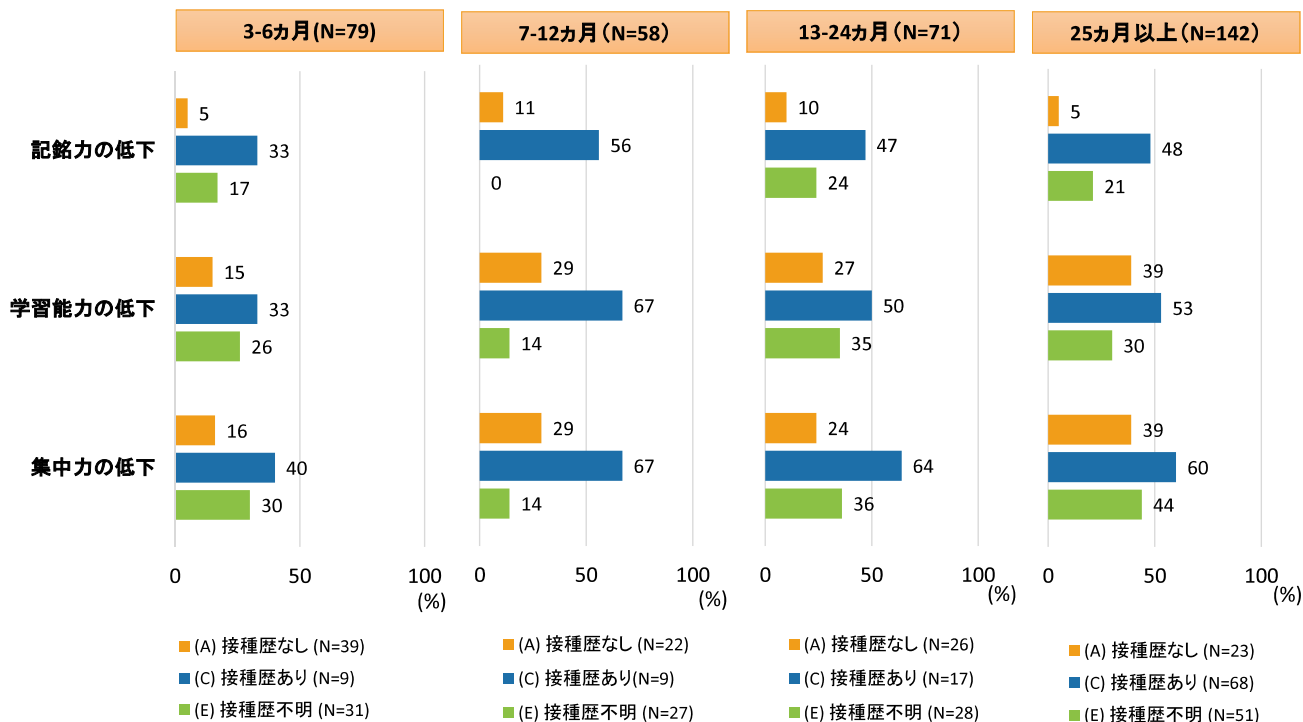


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (5) (症状の持続期間\*別)

認知機能の障害

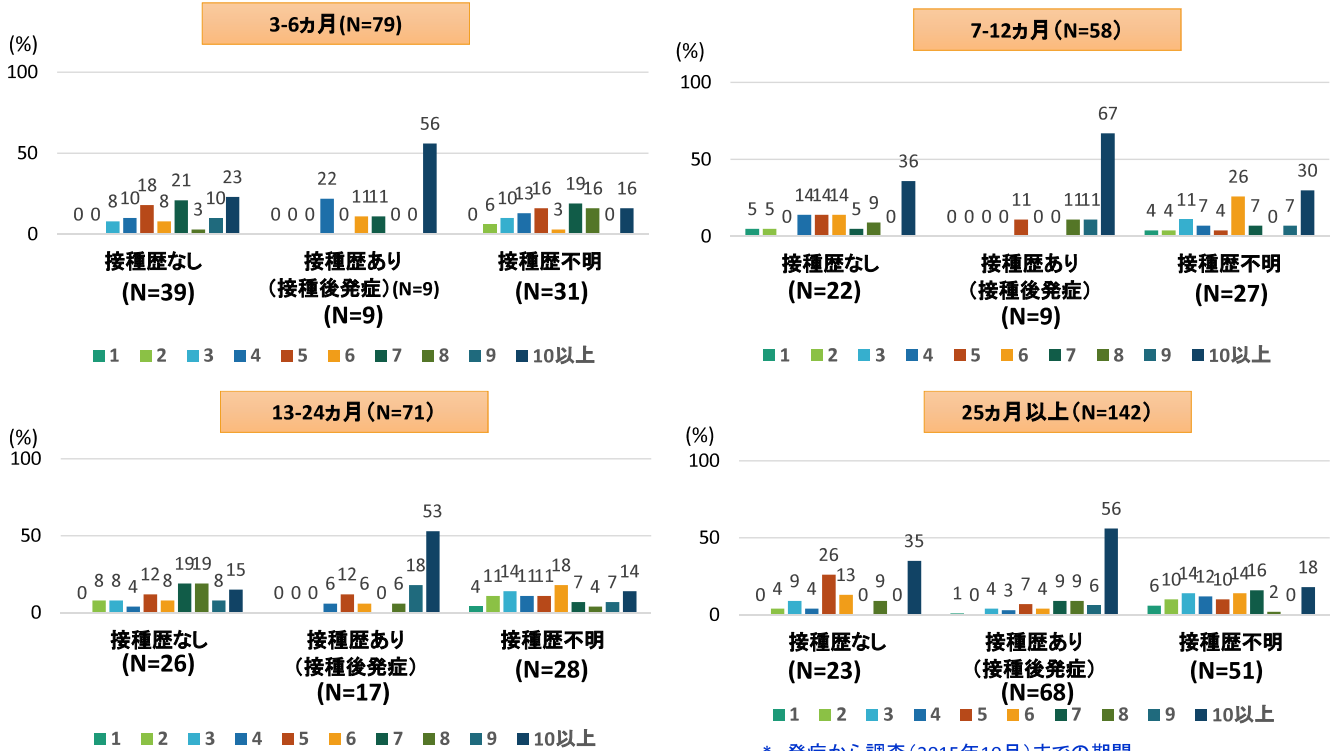


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
 症状の全体的な傾向（1）（症状の持続期間\*別）

症状の数別にみた割合

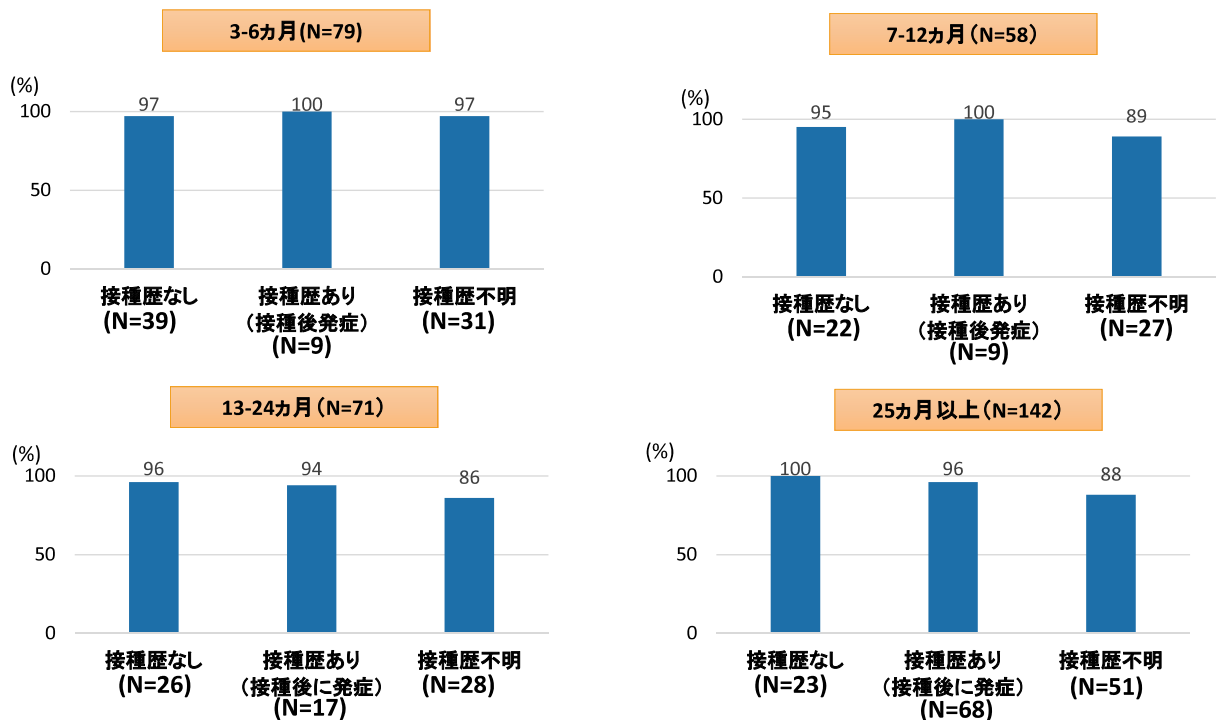


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
 症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
 症状の全体的な傾向（2）（症状の持続期間\*別）

「疼痛」または「運動障害」の症状を1つ以上有する者の割合

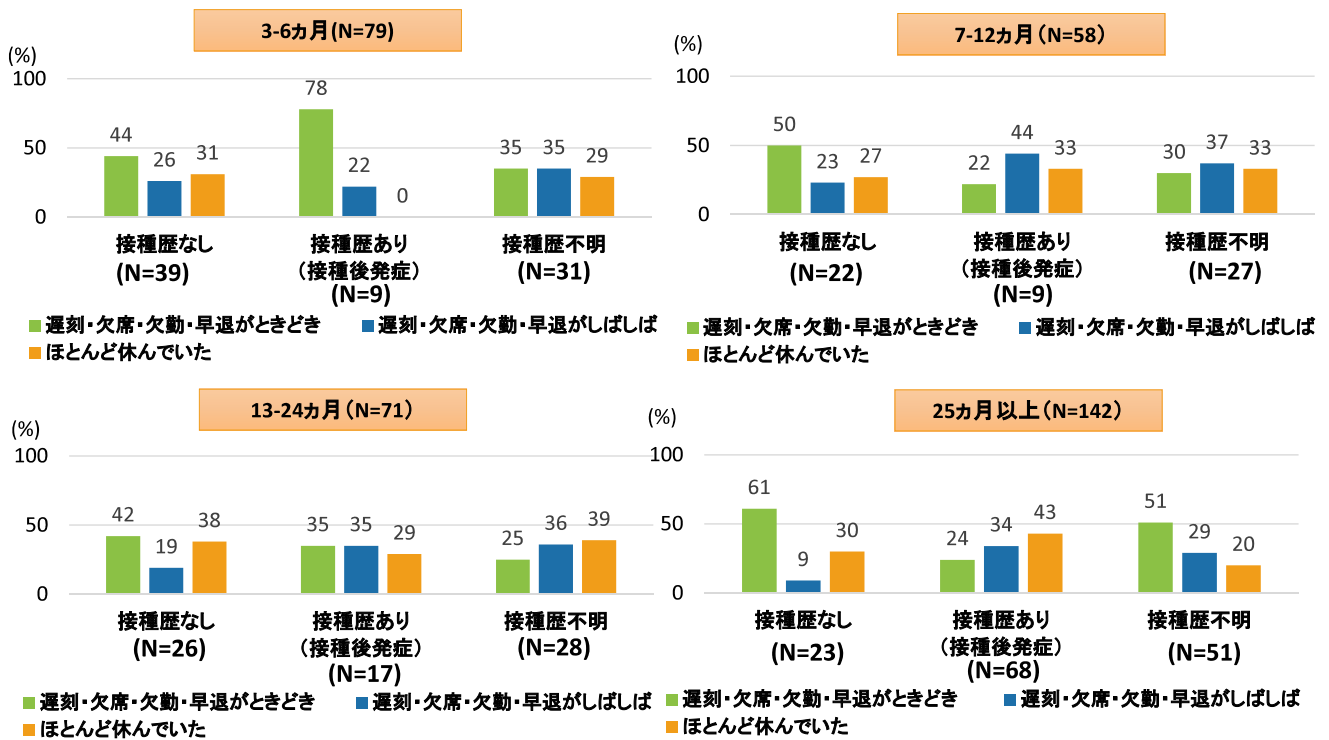


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
 症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
就学・就労状況(1)（症状の持続期間\*別）

就学・就労状況

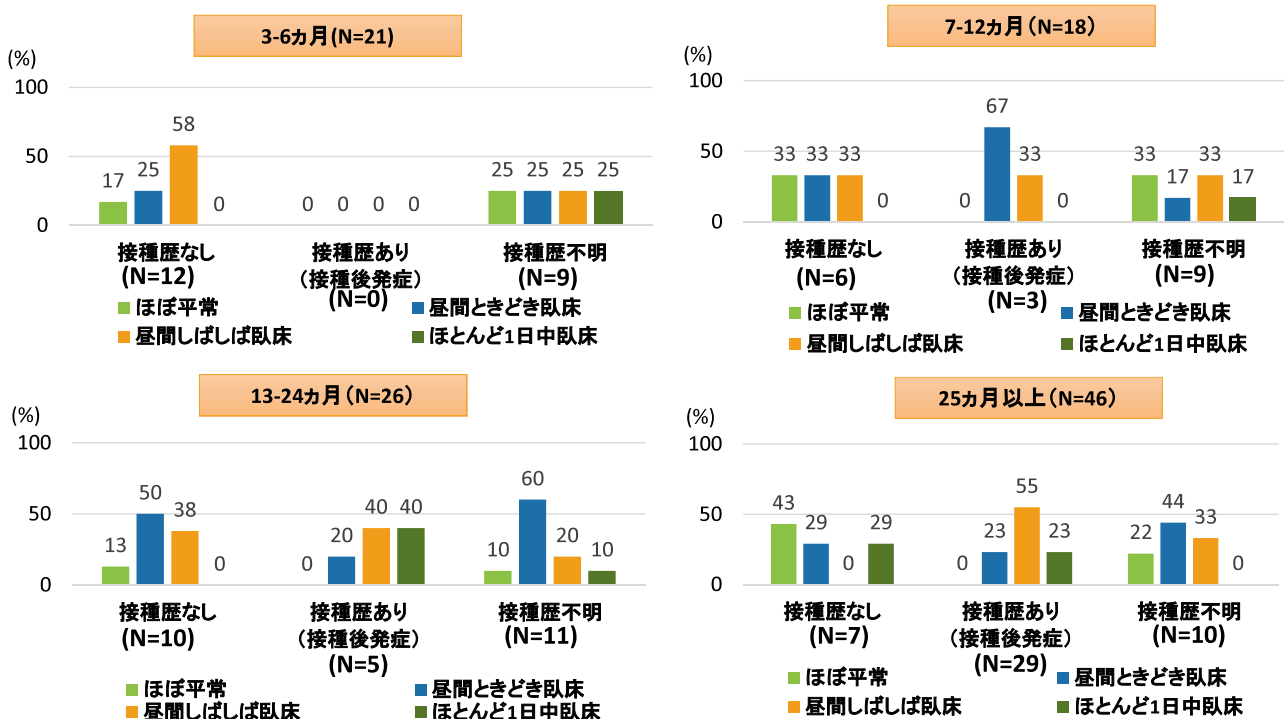


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
就学・就労状況(2)（症状の持続期間\*別）

自宅での過ごし方（就学・就労状況で「ほとんど休んでいた」場合）



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

\* 発症から調査(2015年10月)までの期間。  
就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。